

案

令和 7 年度（令和 6 年度事業実施分）

足立区文化・読書・スポーツ推進委員会
評価報告書

令和 7 年 1 1 月

足立区文化・読書・スポーツ推進委員会

はじめに

人生100年時代を迎えた今、自治体には、長くなった一生をできる限り健康に、心豊かに生き抜くことができる地域社会が求められるのみならず、持続可能な自治体運営の観点からも、その実現は喫緊の課題です。

このような状況において、足立区では、文化・読書・スポーツの3分野が、区民が健康な心と身体を基本としつつ、生きがいや充実感をもって、日々を心豊かに生きていくためのきっかけとなりうると考え、「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」を共通理念に掲げ、相互の関係を意識しつつ、一体的に計画を策定し、この共通理念の実現に向けて、各施策に取り組んでいるものと思います。

足立区文化・読書・スポーツ推進委員会は、足立区長の附属機関として、足立区文化・読書・スポーツ推進委員会条例に基づき、設置されております。

足立区で実施する3分野の各施策に対して、多様な視点から、客観的に評価し、検証を行う審議体です。

本委員会の活動及び本報告書の作成は、足立区における文化芸術、読書活動及び運動・スポーツの推進において、重要な役割を担っているものと考えております。

令和7年度の評価活動については、全体会と部会の両輪で行い、「3分野」の趣旨及び目的を意識した審議に努めてまいりました。

具体的には、全体会では、分野の枠にとらわれない意見交換を中心とした審議を行った一方、部会では、各分野をより掘り下げた議論を中心とした審議を行いました。

このような工夫により、分野特化的視点のみならず、分野横断的視点を取り入れた評価活動につなげることができたと考えております。

これより、各分野の評価活動の結果を概観いたします。

まず、文化芸術分野では、9施策のうち、全体評価が4以上の施策は5施策、2以下の施策は0施策という結果となりました。

一方、各項目評価では、特に「方向性」について、評価4以上の施策は0施策、2以下の施策が1施策と、厳しい結果となりました。

よって、全体としては一定の評価ができるものの、「方向性」に対する評価を踏まえ、施策の一部見直しも含め、改めて取り組みの現状を分析し、適切な方向への改善につなげていくことが求められると考えております。

次に、読書分野では、9施策のうち、全体評価が4以上の施策は8施策、2以下の施策は0施策という結果となりました。

また、各項目評価でも、「達成状況」「方向性」とともに、半数以上の施策は評価4以上となるなど、相対的に高い結果となりました。

ただし、他分野でも同様ですが、最高評価である5の評価となった施策が0施策であることを踏まえると、今後は、施策ごとの特徴や紐づく事業の特性をさらに掘り下げて分析し、より発展的な提案を検討することが求められるものと考えております。

最後に、運動・スポーツ分野では、6施策のうち、全体評価が4以上の施策は4施策、2以下の施策は0施策という結果となりました。

一方、各項目評価では、「達成度」については、評価4以上の施策が4施策であるものの、「方向性」については、評価4以上の施策は1施策にとどまっており、他の分野と同じく、施策、事業の改善に向けて、より実効的な提案を検討することが求められるものと考えております。

これらを踏まえ、3分野全体としての評価活動の結果を総括いたします。

以上のとおり、文化芸術分野、読書分野、運動・スポーツ分野の各分野について、全体としては一定の評価が与えられるものの、一方で、各項目評価からは課題もまだまだ多いということが、改めて明確になったと考えております。

今回、評価対象とした施策は、共通理念の実現に向けて設定したものであることを考慮すると、足立区には、この評価結果を謙虚に受け止め、各施策のより一層の改善、発展に努めることが強く求められるものと考えております。

本報告書をもって、令和7年度の評価活動を締めくくることとなります。

記録的な猛暑の中、本委員会への参加や長期間にわたる調書の読み込みなど、膨大な作業にご尽力をいただいた委員の皆様、事務局、その他関連部門の職員の皆様に対して、心より深い感謝と敬意を表します。

今後も、区政の基本理念である協働・協創を一層進めながら、区民一人ひとりが生きがいや潤いのある人生を過ごせるよう、全力で取り組んでいただくこと、また、本報告書が、今後のよりよい3分野計画策定の一助となることを、切に願っております。

令和7年11月

足立区文化・読書・スポーツ推進委員会
会長 岩永 雅也

1 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会の概要

(1) 推進委員会の役割・構成

ア 推進委員会の役割

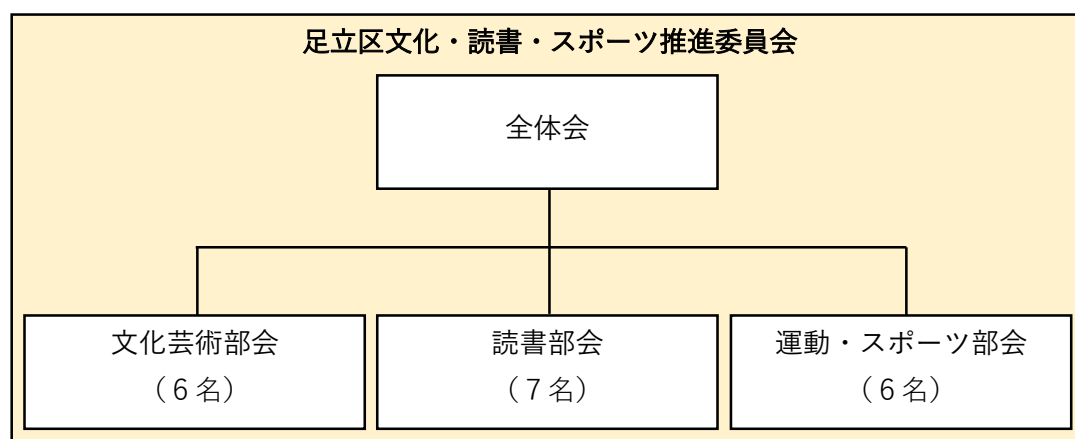
本委員会は「足立区文化芸術推進計画」「足立区読書活動推進計画」「足立区運動・スポーツ推進計画」(以下「3分野計画」という。)の策定、進行の一体的な管理及び評価をするとともに、足立区における文化芸術、読書活動及び運動・スポーツを推進することを目的としている。

本報告書では、足立区長から諮問を受けた「3分野計画の各施策の評価」を行い、改善に向けた提言を行っている。

イ 推進委員会の構成

本委員会は、学識経験者委員4名、有識者委員9名、区議会議員委員3名、公募による区民委員4名の、計20名で構成されている。

また、審議を効果的、効率的に実施するため、文化芸術部会、読書部会、運動・スポーツ部会の、合計3つの部会を設置している。



(2) 評価活動の経過

本委員会の前身である「足立区文化・読書・スポーツ総合推進会議」は、平成29年度に設置され、令和2年度から本委員会に名称を変更し、活動を行ってきた。

3分野計画の折り返し地点である令和4年度から令和5年度にかけては「3分野計画の中間見直しの期間」と位置づけ、各施策・事業の掘り下げや改善を重視した評価活動を行い、改定後の3分野計画に反映させた。

改定後の3分野計画は令和8年度末までを計画期間とし、令和9年度からは新しい3分野計画の策定が予定されていることから、令和7年からは、新しい計画策定に向けた、各事業・施策のより一層の改善を重視した評価活動を開始。令和7年2月27日の第1回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会全体会以降、延べ9回の会議を開催した。

《評価活動の経過※1》

回	日程	会議名	議題
1	令和7年 2月27日(木)	第1回全体会	(1)委嘱状の交付 (2)作業スケジュールについて
2	5月26日(月)	第2回全体会	(1)評価概要について (2)評価調書の共有
3 ┐ 8	6月23日(月) ～ 8月26日(火)	第1回～第2回部会 ※各部会の活動回数 (1)文化芸術 2回 (2)読書 2回 (3)運動・スポーツ 2回	(1)評価の進め方について (2)事務局による事業・施策説明 (3)意見交換 (4)施策評価検討 ①項目別評価 (3項目・5段階) ②全体評価 (5段階)
9	9月26日(金)	第3回全体会	(1)各部会評価の報告・検討 (2)報告書内容の検討

※1 本委員会の活動のうち、評価に関する活動について、抜粋して記載している。

2 評価の概要

(1) 対象施策

評価対象となる施策は、3分野計画において設定した施策となる。

令和7年度は、文化芸術分野9施策、読書分野9施策、運動・スポーツ分野6施策の合計24施策について評価を行った。

(2) 評価の項目及び考え方

評価の項目及び考え方は、以下のとおりである。

ア 評価の項目

①現在の達成状況	②今後の方向性	③反映結果※2
・目標に対して成果が十分に出ているか	・各取り組みが施策の方向性に沿ったものか ・施策の実現に向けた手法は適切か	・前年度の評価（助言）結果が反映されているか

※2 令和6年度は本委員会による評価活動を行っていないため、本項目は評価対象外としている。

イ 評価の考え方

評点	①現在の達成状況	②今後の方向性	③反映結果※ 2
5	優れた取り組みが多く、施策の目標達成に向け、十分な成果が出ている。	各取り組みが施策の方向性に合致しており、手法も適切で、積極的に推進すべきである。	評価（助言）以上に反映した。 （反映率:100%以上）
4	優れた取り組みがいくつかあり、施策の目標達成に向け、成果が出ている。	各取り組みが施策の方向性に合致しており、手法も概ね適切である。	評価（助言）を積極的に反映した。 （反映率:70%程度）
3	いくつかの取り組みに成果は出ているものの、施策の目標達成に向け、更なる工夫が必要である。	各取り組みが施策の方向性に概ね合致しており、手法も概ね妥当である。	評価（助言）をある程度反映した。 （反映率:50%程度）
2	いくつかの取り組みに成果は出ているものの、施策の目標達成に向けての成果があまり出していない。	各取り組みが施策の方向性に合わない部分があり、手法にやや課題がある。	評価（助言）の反映が消極的である。 （反映率:20%程度）
1	多くの取り組みにおいて課題があり、施策の目標達成に向けての成果が出ていない。 改善が必要である。	各取り組みが施策の方向性に合わない部分があり、手法を抜本的に見直す必要がある。	評価（助言）が全く反映されていない。 （反映率:0%程度）

※ 2 令和 6 年度は本委員会による評価活動を行っていないため、本項目は評価対象外としている。

3 各分野の評価結果の概要

(1) 文化芸術分野（部会長：西岡龍彦 東京藝術大学名誉教授）

ア 対象施策に対する評価一覧

施策名		全体 評価	達成 状況	方向性
施策の柱 1 生涯を通じて文化芸術との出会いを創出する				
	施策 1-1 文化芸術の楽しさに「気づく」 機会を創出する	3	3	3
	施策 1-2 子どもの成長に応じた文化芸術 事業を提供する	4	4	3
施策の柱 2 区民の活発な文化芸術活動を促進する				
	施策 2-1 活動の継続を促す参加・体験の 機会を増やす	4	4	3
	施策 2-2 個人や団体の活動の継続を支援 する	4	4	3
	施策 2-3 活動の成果を発揮できる イベントを開催する	4	4	3
施策の柱 3 足立区の文化資源を次世代に継承する				
	施策 3-1 文化財・文化遺産を調査し、 保存・活用する	4	4	3
	施策 3-2 地域の伝統文化を次世代に継承・ 活性化させる	3	3	2
施策の柱 4 文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する				
	施策 4-1 足立区の文化的な魅力を 効果的に情報発信する	3	3	3
	施策 4-2 連携及び交流の機会を充実し、 文化芸術の推進を図る	3	3	3

イ 文化芸術部会における主な議論

(ア) 事業展開の地域的な偏り

区の文化芸術事業は、千住が中心となってしまっているように感じる。区民がどこでも文化芸術に親しむことができる事業展開が必要ではないか。

(イ) 広報・情報発信の強化

事業の参加者拡大に向けた工夫が不足していると感じた。単なる告知手段でなく、文化芸術への入口になるようなアプローチが必要ではないか。

(ウ) 指標の見直し

事業の目標に対し、その方向性を評価するための指標が不十分に感じる部分もある。区民還元の視点なども取り入れた見直しが必要ではないか。

ウ 文化芸術部会からの提言

(ア) 特に高い評価となった施策・事業

- ① 施策１－２「子どもの成長に応じた文化芸術事業を提供する」では、区内全小学５年生が対象の芸術鑑賞体験事業（劇団四季）は、参加した子ども達が感想を家族へ話したことなどを通じて、ミュージカルへの関心の高まりが保護者からも聞こえてきている。成果指標の「足立区の子どもに対する文化芸術事業を評価している区民の割合」が令和４年度から５年度にかけて２倍近く増加している要因にもつながっていると考えられ評価できる。
- ② 施策３－１「文化財・文化遺産を調査し、保存・活用する」では、郷土博物館のリニューアルにより、「郷土資料館」から「郷土美術館」へシフトし、区内の歴史的文化資源を活用している点を評価したい。また、文化財の一般公開やイベント化による利活用の成果は、区民の地域文化への理解と誇りを醸成する点で非常に意義深い取り組みであり評価できる。

(イ) 低い評価にとどまった施策・事業

- ① 施策３－２「地域の伝統芸能を継承・活性化させる」は、低い評価となったが、日本の伝統を現代の子どもたちへどのように継承していくのかというのは全国的な問題である。だからこそ、足立区の取り組みが他の地域に対してアピールできる新たなモデルとなるよう期待している。

(ウ) 総括

- ① 全体としては、一定の評価ができる。
- ② 「達成状況」と比較して、特に「方向性」については、「２」評価となった施策があること、また、全般的に低調な評価に留まったことなどから、対策を講じていく必要がある。
- ③ 今後は、実施状況をより適切に把握できる指標の設定を含め、改めてこれまでの取り組みの現状を分析し、適切な方向への改善に繋げていくことが求められる。

(2) 読書分野（部会長：原田隆史 八洲学園大学教授）

ア 対象施策に対する評価一覧

施策名		全体 評価	達成 状況	方向性
施策の柱 1 子どもの読書習慣に繋がる機会の充実				
施策 1-1	乳幼児が本に親しむ機会の充実	4	4	4
施策 1-2	子どもの読書習慣が身に付く活動の推進	4	3	4
施策 1-3	子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信	3	3	3
施策 1-4	本に親しみ、学ぶための学校図書館の充実と活用	4	4	4
施策の柱 2 区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実				
施策 2-1	区立図書館資料の充実と活用	4	4	4
施策 2-2	障がいや言語などにかかわらず読書に親しめる図書資料などの整備	4	3	4
施策 2-3	区立図書館などの空間サービス、情報発信の充実	4	4	4
施策の柱 3 読書活動を通じた人と人とのつながりの形成				
施策 3-1	読書活動にかかわる人材の育成と団体の支援	4	4	4
施策 3-2	読書活動推進のための多様な連携と協創の推進	4	4	4

イ 読書部会における主な議論

(ア) より多様な方法で読書活動を推進してほしい

例えば、これまであまり力を入れてこなかった大人向けイベントの実施や、時期及び話題性も重視したイベントの企画など、前例踏襲とならないような工夫が求められる。

(イ) 効果的な情報発信のあり方について、改善の余地がある

今後は、従来型の情報発信に加え、図書館外でのより積極的なPRや、区民が受動的に受け取ることのできる情報発信体制の構築が必要。

(ウ) 成果指標の見直しが必要

特に図書資料の貸出冊数については、全国的に右肩下がりである実態も踏まえ、どのように施策の達成度を測定していくかを検討してほしい。

ウ 読書部会からの提言

(ア) 特に高い評価となった施策・評価

- ① 施策1－4「本に親しみ、学ぶための学校図書館の充実と活用」では、「足立区学校図書館支援チーム アクションプラン」の策定による具体的計画に基づき、学校図書館の利活用推進に向けた取り組みを行っている。

その中でも、小学校への学校図書館支援員の配置日数拡充、学校図書館スーパーバイザーによる助言・支援による効果は大きいところである。一方で、公立図書館からは、調べ学習用の図書を学校に配送するサービスなども実施しており、これらの様々な取り組みや、その結果が高い成果指標として表れている点については、高く評価できる。

- ② 施策2－1「区立図書館資料の充実と拡充」では、区の自己評価においては、貸出冊数や貸出率の実績値をダイレクトに評価に反映させた結果、全体評価が「3」、達成度が「2」と、相対的に低い評価となった。

しかし、読書部会では、貸出冊数や貸出率は、現在、全国的に右肩下がりである中、足立区は平均的な水準であると言えることから、足立区の事業や取り組み内容を中心に評価するほうがより適切であると考え、全体評価・達成度ともに「4」と評価した。

(イ) 低い評価にとどまった施策・事業

- ① 施策1－3「子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信」については、保健センターでの読み語りや、妊娠・出産期の保護者への啓発など、施策の中でも重要な位置づけとなる事業が、コロナ禍以降、未実施となってしまっている点から、相対的に低い評価にとどまった。

この点については、今後、積極的な改善を進めていくことを期待したい。

(ウ) 総括

- ① 「達成状況」「方向性」の評価とも「4」が半数以上となったことから、各施策については一定の成果があり、かつ、適切な方向へ展開されていると言える。
- ② 多様な施策、事業について、今後はより具体的、発展的な提案を検討することで、質の向上に努めていくことが求められる。

(3) 運動・スポーツ分野（部会長：溝口紀子 日本女子体育大学教授）

ア 対象施策に対する評価一覧

施策名		全体 評価	達成 状況	方向性
施策の柱 1 運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり				
	施策 1-1 子ども・成人・高齢者・障がい者が運動・スポーツを楽しむきっかけづくり	4	4	3
	施策 1-2 だれもが運動・スポーツを「する」「みる」機会の充実	4	4	3
	施策 1-3 運動・スポーツに関する情報の効果的な発信	3	3	3
施策の柱 2 運動・スポーツの楽しみを深める場の提供				
	施策 2-1 身近な場所における運動・スポーツの推進	4	4	4
施策の柱 3 運動・スポーツをささえる人材の育成と活躍の場の創出				
	施策 3-1 運動・スポーツをささえる組織の支援と連携強化	3	3	3
	施策 3-2 運動・スポーツをささえる人材の育成とマッチング	4	4	3

イ 運動・スポーツ部会における主な議論

(ア) 指標、事業アンケート対象者の見直し

現在の評価は成果指標を中心としているが、特に、事業アンケートを指標としている施策・事業については、回答者が意欲的な層に偏っていることによるバイアスが発生している可能性があり、目標値や達成度と現場実感に乖離がある。

指標が曖昧で評価しにくいといった課題も踏まえ、事業アンケートの対象者や指標について、見直し、改善が求められる。

(イ) 実効的な施策・事業展開

これまでの計画は理念的で「従来どおり」の施策が多く、例えば「パークで筋トレ」では、新規参加者数の伸び悩みに対する具体的な対策（社会人層へのアプローチなど）が見えてこない。

「スクラップアンドビルド」を意識した実効的な施策展開が求められる。

(ウ) 広報・情報発信の強化

現状では、情報発信が、単なる告知に留まっているように感じる。

若い世代に届くような魅力ある情報の発信強化（フォロワー数を意識したSNS運用）やデジタルツールを活かしたPR（「あだち脳活ラボ」の活用）など、参加者の裾野拡大や新規層の開拓などに向けた取り組みが求められる。

ウ 運動・スポーツ部会からの提言

(ア) 特に高い評価となった施策・事業

- ① 施策1-1「子ども・成人・高齢者・障がい者が運動・スポーツを楽しむきっかけづくり」では、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う既存事業の見直しにより、成果指標において、個別事業の目標が概ね達成されており、事業の達成度分布でも、半数以上がA評価である点について、高く評価できる。

今後は、区民に定着した高齢者事業（「パークで筋トレなど」）に加え、子どもの体力向上を目指した事業など、幅広い世代にわたる取り組み拡大がなされることを期待する。

- ② 施策1-2「だれもが運動・スポーツを『する』『みる』機会の充実」では、プロスポーツチームや大学とのボランティア協力など、スポーツ観戦に留まらず、多様な主体と連携し、区民にスポーツ機会やボランティア参加の場を提供することで、今後、更なる地域活性化につながることも期待され、高く評価できる。

(イ) 低い評価にとどまった施策・事業

- ① 施策1-3「運動・スポーツに関する情報の効果的な発信」では、目標値は達成しているものの、指標の設定の妥当性やアクセス数の増加に対する要因分析の不足など、課題も散見されたことから、相対的に低い評価となった。

この点については、今後、積極的な工夫、改善検討を進めることを期待する。

(ウ) 総括

- ① 全体としては、一定の評価ができる。
- ② 「達成状況」と比較して、特に「方向性」については、全般的に低調な評価に留まっており、今一度、区の目指すべき目標を明確にするよう、検討する必要がある。
- ③ 今後は、施策、事業の一部見直し（スクラップアンドビルド）も含め、達成状況の向上に向けた、より実効的な提案の検討が求められる。

4 評価の詳細（14～61 ページ「施策評価シート」参照）

- (1) 文化芸術推進計画 施策評価シート
- (2) 読書活動推進計画 施策評価シート
- (3) 運動・スポーツ推進計画 施策評価シート

5 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 委員名簿

区分	氏名	役職・団体等	部会
学識経験者 (会長)	岩永 雅也	放送大学 学長	-
学識経験者 (副会長)	西岡 龍彦	東京藝術大学 名誉教授	文化芸術
	川村 みこと※3 小泉 ひろし※4	足立区議会議員	文化芸術
	荻野 美恵子	東京都盲人福祉協会 女性部会長	文化芸術
	葛西 啓之	株式会社いのちとぶんか社 代表取締役社長	文化芸術
	傍嶋 賢	SOBAJIMA STUDIO 代表	文化芸術
	田島 のぞみ	区民（公募）	文化芸術
学識経験者 (副会長)	原田 隆史	八州学園大学 教授	読書
	大竹 さよこ※5 川村 みこと※6	足立区議会議員	読書
	高祖 常子	子育てアドバイザー／ キャリアコンサルタント	読書
	田口 幹人	合同会社未来読書研究所 代表	読書
	長沖 竜二	図書館総合展運営委員会 事務局長	読書
	中野 理紗	区民（公募）	読書
	古瀬 清美	区民（公募）	読書
学識経験者 (副会長)	溝口 紀子	日本女子体育大学 教授	運動・スポーツ
	しぶや 竜一※7 伊藤 のぶゆき※8	足立区議会議員	運動・スポーツ
	木村 潤平	パラリンピックトライアスロン選手 （一般社団法人 ChallengeActive Foundation 代表理事）	運動・スポーツ
	田中 ひろ子	公益財団法人足立区スポーツ協会 会長	運動・スポーツ
	栞山 猛	株式会社サンベルクスホールディングス スポーツクラブ事業部 事業部長	運動・スポーツ
	中村 重男	区民（公募）	運動・スポーツ

※3、5、7 令和7年2月から令和7年6月まで

※4、6、8 令和7年6月から

ページ構成の都合上、13 ページは余白

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	生涯を通じて文化芸術との出会いを創出する
施策名	1-1	文化芸術の魅力や楽しさに「気づく」機会を創出する
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

文化芸術との出会いは、実際に触れ感することから始まる。文化ホールや劇場での舞台鑑賞、イベントや地域ごとの文化施設での取り組みなどを拡充することにより、誰もがいつでも文化芸術を楽しめる機会を創出する。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	足立区は文化芸術に親しめるまちと感じている区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術に親しめるまちであると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	30.3%	-	-	-	(80.0%)
目標値（R8）	80.0%			37.9%	-	-	-	

指標名②	足立区の文化芸術事業を評価している区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術事業を評価できると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	25.8%	52.4%	-	-	(80.0%)
目標値（R8）	80.0%	達成率	-	32.3%	65.5%	-	-	

指標名③	文化芸術に関心を持っている区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 文化芸術（観たり、聴いたり、創作すること）に関心がある区民の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	65.6%	実績値	65.6%	67.0%	92.6%	89.7%	-	(95.0%)
目標値（R8）	95.0%	達成率	-	70.5%	97.5%	94.4%	-	

指標名④	過去1年間に文化芸術鑑賞をした区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 過去1年間に、文化ホールや美術館、博物館、劇場、映画館などに出かけて、鑑賞した区民の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	54.5%	実績値	54.5%	30.3%	66.1%	67.2%	-	(70.0%)
目標値（R8）	70.0%	達成率	-	43.3%	94.4%	96.0%	-	

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	11	0	1	2	0	0	14
%	79%	0%	7%	14%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
令和5年度、令和6年度は3計画アンケート未実施
指標③実績値（92.6%→89.7%）令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を下回った。
指標④実績値（66.1%→67.2%）令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。

【要因分析】
ア 令和5年度のシアター1010では「音楽の絵本 ダンディズム」、「アサルトトリリィ」、「青春のアイドル ヒットステージ」など、子ども・若者・壮年をそれぞれ対象とした公演などを実施し、劇場来場者の合計は141,335人と、令和4年度の113,415人から25%増した。なお、令和6年度は11月から工事休館となり、来場者数は89,860人となった。
イ シアター1010の文楽公演に先駆け、令和5年度から国立劇場と連携して「初めての文楽講座」を実施した。令和5年度の参加者のべ数は267人、令和6年度は232人である。

【その他実績等】
ア 令和元年度以来、4年ぶりにアトリウムコンサートを開催した。令和5年度は、のべ819人の観客が来場し、令和6年度はのべ1,274人の観客が来場した。
イ ストリートピアノのアウトリーチを実施し、令和6年度は2回開催で、のべ104人が参加した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
ア 文楽公演無料招待など区民還元事業等を実施し、伝統文化に区民等が関心を寄せるきっかけを創出する。
イ ストリートピアノは、集客のためゲストパフォーマーの出演や他のイベントとコラボなどをして実施する。

【中長期の取り組み】
ア 区民が文化芸術を楽しむために、子どもから高齢者、障がい者や外国人など、誰もが文化芸術の魅力に「気づき」、楽しいと思える出会いの機会を充実させていく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（２次評価）	3	3	3	－
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 指標③、④は令和８年度目標の達成が見込めるが、指標①、②については、今のままでは達成が困難と思われるため、今後の対策をしてほしい。事業の実施は多角的に行っている中で、「文化芸術に親しめるまちと感じている区民の割合」の達成度が37.9%から上がるよう、引き続き様々な視点から事業を実施してほしい。 イ 文楽公演や国立劇場との連携について、新たな試みを実施していることは評価できる。しかし、令和５年度の世論調査（小規模調査）では、シアター1010で文楽公演を行っていることの認知度が22.1%であったことから、周知に力を入れてほしい。				
(2) 「今後の方向性」への評価 ア これまで文楽を鑑賞するきっかけがなかった方が、新たに鑑賞する機会を作ったことは評価できる。今後も、伝統芸能の裾野を広げる取り組みを行ってほしい。 イ ストリートピアノのアウトリーチは、引き続きより多くの区民等が文化芸術に触れられるよう工夫し集客を図ってほしい。				
(3) 「助言の反映状況」への評価 令和６年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。 令和７年度に、外部評価を実施し、令和８年度に、令和７年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による評価（令和７年９月記載）	3	3	3	－
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 指標①について、令和８年度の目標（80%）を達成するため、事業の取り組みや魅力などをワンポイント講座のようにあだち広報等で紹介するなど、周知を工夫をされたい。 イ 指標③④については一定の評価をするが、北千住だけでなく他の地域でも文化に親しめる取り組みに力を入れて欲しいと思う。 ウ 初めての文楽講座の内容は大変充実しており、質の高いプログラムが提供されていることがうかがえる。				
(2) 「今後の方向性」への評価 ア 文楽公演無料招待、区民還元事業の実施は、区民が関心を寄せる良い機会と思うが、文楽のみに縛られず、幅広いコンテンツを足立区で鑑賞できる環境を準備することが重要と考える。 イ ストリートピアノの導入は、音楽に触れるきっかけになるので評価したい。集客のためのゲストパフォーマー出演やイベントのコラボは、予算の検討も必要だが有効と思われる。 ウ 中長期の取り組みについて、具体性に乏しいように感じる。中長期とはいえ、もう少し具体的に記載して欲しい。 エ 伝統文化の継承や紹介については、現代の生活様式とのギャップもあり、参加のハードルが高くなりがちであるが、工夫次第で魅力的なプログラムの展開も可能である。今後は情報発信の工夫と、体験を通じた関心喚起により、より多くの人が伝統文化に触れる機会が創出されることを期待したい。				
(3) 「助言の反映状況」への評価 令和６年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。				

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「５ 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和７年●月記載）

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	生涯を通じて文化芸術との出会いを創出する
施策名	1-2	子どもの成長に応じた文化芸術事業を提供する
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

未来ある子どもたちが人生を楽しく心豊かに生きていくために、より多くの文化芸術に触れる機会が必要である。子どもの成長に応じた効果的な文化芸術のアプローチについて、新たに指針を策定し、「楽しさ」や「面白さ」といった心を動かす体験を数多く、かつ継続的に経験してもらう事業を提供していく。
創造力・想像力、思考力、コミュニケーション能力など現代社会で生きていくために必要な力を育むとともに、文化芸術の新たな担い手の育成にもつながることから、長期的な展望を持って取り組んでいく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	足立区は子どもたちが文化芸術を楽しめるまちと感じている区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は子どもたちが文化芸術を楽しめるまちであると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	35.2%	-	-	-	(90.0%)
目標値（R8）	90.0%	達成率	-	39.1%	-	-	-	

指標名②	足立区の子どもに対する文化芸術事業を評価している区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区の子どもに対する文化芸術事業を評価できると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	30.8%	39.2%	64.1%	-	(90.0%)
目標値（R8）	90.0%	達成率	-	34.2%	43.6%	71.2%	-	

指標名③	過去1年間に文化芸術鑑賞をした子どもの割合							
指標の定義	3計画アンケートによる調査を実施 過去1年間に、学校行事以外で文化ホールや美術館、映画館などに出かけて、鑑賞した子どもの割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	89.0%	実績値	89.0%	57.6%	-	-	-	(100.0%)
目標値（R8）	100.0%	達成率	-	57.6%	-	-	-	

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	8	2	1	1	0	1	13
%	62%	15%	8%	8%	0%	8%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

令和5年度、令和6年度は3計画アンケート未実施

指標②実績値（39.2%→64.1%）令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。

【要因分析】

ア 令和4年度から開始した芸術鑑賞体験事業では、全区立小学校5年生を対象に劇団四季の「美女と野獣」の観劇を実施している。児童向けアンケートでは、劇の内容に関心を寄せるもののほか、「舞台上に立ちたいと思った」「ミュージカルに関連する仕事をしたい」など舞台に対して強い興味を示すものもあった。
また、参加した子どもたちの95%が観劇後に家族等と感想を話しており、事業の継続実施が、区の子どもに対する文化芸術事業の評価へつながったと考える。

イ 令和6年度ギャラクシティの「Japan Festa in ADACHI」では、千住宿開宿400年と関連して「江戸時代」をテーマに設定し、施設全体で一体感のあるイベントとなった。しかし、開催日数が2日間であったため、参加者数は7,067人となり、令和5年度（3日間開催）の10,215人から30.8%減となった。

【その他実績等】

ア 令和5年度は朝日信用金庫創立100周年記念「地元応援団」寄附を活用し、子ども向け公演「はらぺこあむしショー」を実施した。公演には区民等を無料招待し、1,400人の定員（700席×2回）へ延べ2,913人の応募があった。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア 小学5年生の芸術鑑賞体験事業は、劇団四季に限らずよりよい演目を精査するなど、引き続き子どもたちが良質な芸術鑑賞を体験できるよう検討する。

【中長期の取り組み】

ア 子どもたちが、楽しく力強く生きていくために、成長段階に応じた文化芸術体験事業を提供する。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（2次評価）	4	5	3	-

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア 子どもの文化的体験は、文科省の調査でも良い影響があると言われている。芸術鑑賞体験事業でのミュージカル鑑賞機会が子どもたちに、舞台演出を提供する側への興味を抱かせるなどの心を動かす体験となったことは評価できる。

イ 「はらぺこあおむしショー」では、令和5年10月の寄附受け入れから令和6年3月のイベントまで、事業の実施が迅速であり評価できる。

(2) 「今後の方向性」への評価

ア 芸術鑑賞体験事業でミュージカル鑑賞をした子の95%が家族等へ感想を話しているとのことで、家族等が子どもと一緒に関心を持つきっかけにもつながると考える。今後も、単に子どもたちが楽しいだけでなく、子どもの心を動かし、家族等の関心も一緒に引き出せるような質の高い演目を選定していただきたい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）	4	4	3	-

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア 指標②については、達成率も順調に伸びており評価できる。

イ 芸術鑑賞体験事業の実施については、参加した子どもたちが感想を家族に話すなど、ミュージカルへの関心の高まりが保護者からも聞こえており評価できる。

ウ 「はらぺこあおむしショー」については、参加希望者が応募人数をはるかに上回り人気うかがえるが、応募した半数が参加できていない。より多くの子供が参加できるように機会を増やしてほしい。

(2) 「今後の方向性」への評価

ア 子ども達の心成長に活かせる芸術鑑賞体験事業として、より良い演目などを精査していくことは重要であり評価する。

イ 子どもたちを中心とした鑑賞機会の提供は、文化芸術への興味関心を育むうえで極めて重要であり、今後も継続的に実施されることが望ましい。加えて、既存のプログラムに加え、デジタル技術の活用や学びと結びつけた体験型企画など、新たなアプローチによる展開が期待される。

ウ 中長期の取り組みが漠然としているので、子ども達の成長段階に応じたバラエティに富んだ芸術体験を学校向けに行うなど、もう少し具体的に記載して欲しかった。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	2	区民の活発な文化芸術活動を促進する
施策名	2-1	活動の継続を促す参加・体験の機会を増やす
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

文化芸術に関する様々な体験や創作活動などを、継続的に行えるように、機会の提供や活動の支援を行っていく。
また、各学習センターにおいて、複合施設という特色を活かし、読書や運動・スポーツ分野の事業と連携することで相互の活動を促進していく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	文化芸術関連事業への参加・活動を行った区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 これまで文化芸術に関する創作や表現などを体験するイベントや講座に参加したことがある区民の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	15.7%	実績値	15.7%	22.9%	34.9%	50.8%	-	(50.0%)
目標値 (R8)	50.0%	達成率	-	45.8%	69.8%	101.6%	-	

指標名②	足立区は参加・体験型の文化芸術事業が多いと感じる区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は参加・体験型の事業が多いと思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	新規	実績値	新規	22.2%	39.7%	-	-	(70.0%)
目標値 (R8)	70.0%	達成率	-	31.7%	56.7%	-	-	

指標名③	足立区の文化芸術事業を評価している区民の割合【再掲】（施策1-1）							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術事業を評価できると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	新規	実績値	新規	25.8%	52.4%	-	-	(80.0%)
目標値 (R8)	80.0%	達成率	-	32.3%	65.5%	-	-	

指標名④	分野間連携事業の参加により、新たに文化芸術活動を始めた区民の割合							
指標の定義	3分野連携事業の参加者アンケートにおいて、「定期的ではないが文化芸術活動をしています。」以上を選んだ区民の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)		実績値	新規	57.5%	43.8%	53.4%	57.0%	(63.0%)
目標値 (R8)	63.0%	達成率	-	91.3%	69.5%	84.8%	90.5%	

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	x	合計
事業数	3	0	0	0	0	0	3
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

令和5年度、令和6年度は3計画アンケート未実施
指標①実績値（34.9%→50.8%）令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。なお、令和8年度の目標値（50.0%）も上回った。
指標④実績値（43.8%→53.4%）令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。

【要因分析】

ア 学習センターは、趣味教養的な講座に加え、大学との連携により高度で専門的な講座等の多くの事業が実施できた。また、Zoom等を活用したオンライン講座やオンデマンド配信など、ICTを活用した事業も引き続き実施し、多くの区民が参加・体験できる機会を創出し、令和6年度参加者延べ数は107,123人と令和5年度の75,937人から41.1%増となった。
イ 読書や運動に関心を持つ方を文化分野へつなぐ「ちょいカル」は、「ほつかレイトサマー」「伊興ファミリー縁日」などイベントも通じて、これまで接触機会がなかった方へ文化芸術活動の体験機会を創出した。

【その他実績等】

ア 千住ほんちょう商店街等で実施した「1DAYパフォーマンス表現街」では、令和5年度は合計51組、令和6年度は70組のアーティストがパフォーマンスを行い、人と人、人と場所、人とアートが出会う場を創出した。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア 「千住だじやれ音楽祭」では、令和2年に構想した「千住の1010人 from2020年」を千住宿開宿400年にあたる令和7年に実施することを視野に入れ、活動を行っていく。
イ 「ちょいカル」は「ぶちカル」と名称を変更し、継続参加者がこれまで同様に参加できるよう働きかけつつ、施設利用者に対し異なる分野への興味・関心を広げる取り組みを継続していく。

【中長期の取り組み】

ア 区民が文化芸術に関する様々な体験や創作活動などを継続的に行えるよう、機会の提供や活動の支援する。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（2次評価）	4	4	3	—
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 学習センターでのオンライン講座やオンデマンド配信などの取り組みが区民の文化芸術活動へつながったと考える。「文化芸術関連事業への参加・活動を行った区民の割合」が令和5年度は50.8%と、令和4年度の34.9%から15.9ポイント増加したことは評価できる。 イ 3分野連携事業により、読書・運動に関心を持つ人が文化分野の活動へ触れる機会を創出したことは評価できる。体験機会の創出から活動継続へつなげる支援が大切である。				
(2) 「今後の方向性」への評価 ア 千住宿開宿400年の事業は、多くの方が身近に区の文化や歴史を感じられる機会である。「千住だじゃれ音楽祭」だけでなく、千住地域の枠を越えて地域と連携し、イベントの拡充を期待する。また、千住宿開宿400年をきっかけとして、次につながる事業展開を期待する。				
(3) 「評価の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）	4	4	3	—
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 学習センターにおけるオンライン講座の取り組みは、時間や場所の制約を受けにくい参加環境を提供しており、参加者数の増加という成果にもつながっている点が評価できる。今後もこの成果を継続・拡張していくことが期待される。 イ 「ちょいカル」は、文化・スポーツ・学びの3分野を横断する参加促進の仕組みとして有効に機能しており、地域住民が気軽に参加できる環境づくりに寄与している。				
(2) 「今後の方向性」への評価 ア 千住宿開宿400年に関連させた活動は評価できるが、千住だけ一部が盛り上がるのではなく、足立区全体に波及できるようにしてほしい。 イ 歴史的な地域資源との連携をさらに深め、千住宿開宿400年などの記念事業と日常的な参加促進プログラムを有機的に結びつけた新たな展開が図られることを期待したい。 ウ 令和9年度から、ギャラクシティの大型改修により施設が使えなくなるので、その時に今と同じ数の事業が運営できるのかも知りたかった。 エ 学習センター等で行われている講座には「文化芸術」というカテゴリに入れてよいのか疑問を持つ講座も多いので、区民に体験していただく文化芸術の内容や質にも注目して進めていくべきと考える。				
(3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。				

6 推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和●年●月記載）

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	2	区民の活発な文化芸術活動を促進する
施策名	2-2	個人や団体の活動の継続を支援する
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

個人や団体が定期的に、また継続して活動できるよう、区のサポート機能を強化していく。例えば、区内文化団体との共催・後援により文化活動の活性化を図ることや文化芸術事業への文化芸術振興基金の効果的な活用を進めていく。基金を活用することによって、文化事業の継続実施を図るとともに、虹色寄附金への寄附で文化を支える人と、活動する人をつなぐ役割も持ちます。また、文化芸術の次代の担い手となる若者や団体が、将来活躍するための最初の一步となるよう、経験を積む機会を提供していく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	足立区は文化芸術活動を行いやすいまちと感じている区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術活動を行いやすいまちと思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	21.4%	41.3%	-	-	(80.0%)
目標値（R8）	80.0%	達成率	-	26.8%	51.6%	-	-	

指標名②	足立区は文化芸術活動への支援を十分にできていると感じている区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術活動への支援を十分にできていると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	16.3%	31.2%	-	-	(80.0%)
目標値（R8）	80.0%	達成率	-	20.4%	39.0%	-	-	

指標名③	文化芸術に関わる活動をおこなっている区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 文化芸術に関わる活動をおこなっている区民の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	12.4%	実績値	12.4%	12.1%	16.9%	39.5%	-	(30.0%)
目標値（R8）	30.0%	達成率	-	40.3%	56.3%	131.7%	-	

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	7	4	0	0	0	0	11
%	64%	36%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

令和5年度、令和6年度は3計画アンケート未実施
指標③実績値（16.9%→39.5%）は3令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。なお、令和8年度の目標値（30.0%）も上回った。

【要因分析】

ア 令和5年度の音楽3団体の定期演奏会は観客数が3,655人と令和4年度の3,031人から21%増となった。また、令和6年度観客数は3,745人となり、さらに前年度比6%増となった。
イ 音楽3団体や足立区文化団体連合会以外に区が共催した文化事業は、令和4年度は9事業、令和5年度、6年度はともに10事業であった。区民が活動成果を発表する機会が継続された。

【その他実績等】

ア 将来メジャーでの活躍を目指すアーティストを支援する「エンターテインメントチャレンジャー支援事業（以下えんチャレ）」は区施設のほか、駅や民間施設に申込チラシの設置とSNSでのPRを継続して行い、令和6年度時点では8団体の登録者がある。新規登録者は「中国雑技」の団体であるなど、登録者全体の活動内容もバラエティに富んでいる。
イ 文化芸術団体への事業の後援は、令和5年度は49事業、令和6年度は51事業を行い、地域の継続した文化芸術活動を後押しした。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア えんチャレ登録団体を支援するため、天空劇場に加えて、生涯学習センターや各地域学習センターの会場利用を紹介する。
イ 郷土博物館の講師派遣事業は、以前の企画展の波及効果として、引き続き近隣自治体からも派遣依頼があるため、区内外問わず学びのニーズに応じていく。

【中長期の取り組み】

ア 個人や団体が定期的に、また継続して活動できるよう、区のサポートを強化していく。文化芸術の次世代の担い手となる若者や団体が、将来活躍するための経験を積む機会を提供していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（2次評価）	4	3	4	—
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア コロナの5類移行により、多くの区民が文化活動を再開し、その支援ができるようになったと考える。引き続き、区民が活動を行いやすいと感じるよう、文化芸術活動の支援を継続していただきたい。 イ えんチャレ事業ではプロを目指すアーティストを支援することで、にぎわいのある街づくりへの貢献につながるとともに、区民が練習や公演を無料で観ることができ、文化芸術に触れる機会の提供に寄与しているとする。今後もえんチャレ登録団体同士の共演等、活動の活性化を期待する。 (2) 「今後の方向性」への評価 ア 郷土博物館の講師派遣事業では、文化財などに関心を持つ区民が自主的に専門的な知識を得られる機会を創出している。多くの人に関心を持ってもらえるよう、引き続き活動継続の支援を行ってほしい。 (3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）	4	4	3	—
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 指標③の増は、定期演奏会や区が共催した各種文化事業などの取り組み成果が現れていると評価する。 イ えんチャレ事業においては、チャレンジャーの更なる活動の活性化と支援を図ってほしい。 ウ 文化団体への後援が令和5年、6年と徐々に増えている点を評価したい。これからも、区で活躍する文化芸術団体を応援して欲しい。 エ 区内3つの音楽団体による定期演奏会は、地域に根ざした音楽活動の活性化が図られ、日常的に質の高い音楽芸術に触れることができる環境が整いつつある点が高く評価できる。 (2) 「今後の方向性」への評価 ア えんチャレの新規登録者に「中国雑技」の団体が入ったが、今後も多様なチャレンジャーが出るようさらに広報を行ってほしい。制度の活用方法や得られる支援、ネットワークの利点などを明確に伝えることで、新たな登録や活動参加を促進し、地域全体の文化活動の底上げにつながることが期待される。 イ 郷土博物館がリニューアルオープンしたが、地理的に離れたところに住む区民のために、所蔵品の巡回展示などにも期待したい。 ウ えんチャレ等、プロを目指す人向けの支援の他に、より一般的な支援（学習センター等と連携したものなど）も開発していく必要があるように感じる。 (3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。				

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	2	区民の活発な文化芸術活動を促進する
施策名	2-3	活動の成果を発揮できるイベントを開催する
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

個人または仲間と共に作り上げてきた作品を発表する場を設けることは、活動を継続する上での糧となる。目標を持つことで充実した活動を行う動機付けとなるように、区民との協創を図りつつ、区民のニーズに合った発表の場を作っていく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	足立区は活動の成果を発揮できる機会が十分にあると感じている区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術活動の成果を発揮できる機会が十分にあると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	20.2%	39.2%	52.3%	-	(70.0%)
目標値（R8）	70.0%	達成率	-	28.9%	56.0%	74.7%	-	

指標名②	足立区の文化芸術事業を評価している区民の割合【再掲】							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術事業を評価できると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	25.8%	52.4%	-	-	(80.0%)
目標値（R8）	80.0%	達成率	-	32.3%	65.5%	-	-	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	1	4	0	0	0	0	5
%	20%	80%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
令和5年度、令和6年度は3計画アンケート未実施
指標①実績値（39.2%→52.3%）は3計画アンケート未実施のため、令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。
指標②は再掲（施策1-1） 令和5年度、令和6年度は未実施

【要因分析】
ア 「サークルフェア・ふれあい祭り」は、全てのセンターで実施し、登録団体等の日頃の活動成果の発表および地域との交流の場となった。令和5年度来場者は39,722人と令和4年度の14,133人から181%増となったが、令和6年度は39,413人と0.7%減であった。
イ あだち区展・美遊展・文化祭などの共催事業については、令和5年度は21イベントであったが、令和6年度は18イベントとなった。区民の文化活動の成果発表が継続でき、機会の創出につながったと分析する。

【その他実績等】
ア 令和6年度、ADACHI障がい者アート展では展示物だけでなく5年ぶりの式典や、合唱、合奏、ダンスなどの「ふれあい発表会」を開催した。また、令和5年度から新たに発信した作品制作者へのインタビュー記事および動画も引き続き作成した。
イ 「大ひょうげん」では、子どもたちが5日間、ミュージカル「アルプスの少女ハイジ」を練習し西新井文化ホールで発表した。また、マジックなどの公演「THE GREATEST ENTERTAINMENT SHOW3」とコラボし、チアダンス体験・アイドル体験に分かれて練習を重ねショーに参加した。なお、令和6年度に参加した子どもの数は1,468人と令和5年度の1,530人から4%減となった。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
ア あだち区展・美遊展・文化祭などのイベントを通じて活動成果の発表の場を設け、区民の自発的な文化事業の創出につなげる。
イ 「大ひょうげん」では、引き続き子どもに人気な演目などを取り入れながら事業を実施する。

【中長期の取り組み】
ア 区民が充実した活動を行う動機づけとなるような文化芸術活動の目標を持てるよう、区民との協創を図りつつ、ニーズに合った発表の場を作っていく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（2次評価）	4	4	3	—
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア あだち区展およびADACHI障がい者アート展では、作品制作者へのインタビュー記事などを区ホームページに掲載したとのことで令和5年度の閲覧数は大きく増加していた（令和5年度閲覧数4,864回。前年度比116%増）が、令和6年度閲覧数は1,863回と前年度から61.7%減であった。インタビュー記事の掲載は、作品をウェブ上で観覧するきっかけになるとともに、制作者の活動の動機付けにもつながると考え評価できるため、今後の閲覧数増につながるよう期待する。 イ 「大ひょうげん」は、子どもたちがプロの技に触れ、表現する喜びを体験し、芸術活動の楽しさと伝統芸能を学べる貴重な事業であり、多くの子どもたちが参加したことは評価できる。				
(2) 「今後の方向性」への評価 ア あだち区展・美遊展・文化祭など、今後とも区民の自発的な活動が継続できるよう、広報や後援などの支援とともに、成果を発揮できる機会を拡充してほしい。				
(3) 「助言の反映状況」への評価 <u>令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。</u> <u>令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。</u>				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）	4	4	3	—
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 「ふれあい祭り」は、令和4年度よりも令和5年度により多くの方が参加できている点を評価したい。 イ 「ADACHI障害者アート展」や「大ひょうげん」といった事業を通じて、障害のある方々や子どもたちなど、多様な人々が主体的に参加できる機会が充実しており、インクルーシブな文化環境の醸成に貢献している。				
(2) 「今後の方向性」への評価 ア 区外へ鑑賞に出かけたり、作品づくりをしている文化芸術活動に関心の高い方でも、区の関連するイベントや団体に参加していない方が存在する。団体以外の個人、障がいのある方々にも気楽に会場してもらったり作品を出してもらえようような裾野の拡充を図ってほしい。 イ 共催イベントについて、令和5年度に21イベントだったものが令和6年度に18イベントになったとあるが、この現象には高齢化などの問題があるように感じる。短期や中長期の取り組みの中で、少子高齢化などの社会事情について区がどのようにアプローチしていくかについて、記載があると更に良かったように思う。 ウ 既存の優れた取り組みをさらに広げ、参加者層の拡大と地域全体の文化活性化につなげていくことが望まれる。区主催のイベントには限りがあるので、地域の住民が主体となってイベントを企画、運営していき、伴走支援を行っていくことも重要と考える。				
(3) 「助言の反映状況」への評価 <u>令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。</u>				

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	3	足立区の文化資源を次世代に継承する
施策名	3-1	文化財・文化遺産を調査し、保存・活用する
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

有形・無形を問わず、文化財・文化遺産を保護し、次の世代へ残していくための取り組みを行う。区に残る貴重な文化資源が消失してしまわぬように、区民や歴史研究者、郷土博物館協働グループなどの協力を得ながら、調査・収集・保存に努める。また、区内外を問わず人々の関心を引くPR方法を取り入れながら、積極的に活用していく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	足立区の文化財や伝統芸能に触れたことのある区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 足立区内や住む地域の伝統芸能や文化財などを鑑賞したことがある区民の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	40.8%	実績値	40.8%	37.7%	44.5%	40.5%	-	(70.0%)
目標値（R8）	70.0%	達成率	-	53.9%	63.6%	57.9%	-	

指標名②	足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	31.6%	55.6%	60.0%	-	(70.0%)
目標値（R8）	70.0%	達成率	-	45.1%	79.4%	85.7%	-	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	0	1	2	0	2	7
%	29%	0%	14%	29%	0%	29%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（44.5%→40.5%）は3計画アンケート未実施のため、令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を下回った。

指標②実績値（55.6%→60.0%）は3計画アンケート未実施のため、令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。

【要因分析】

ア 休館中の博物館事業PRとして出張展示等を行っており、区民が文化財を鑑賞する機会の創出を継続している。令和5年度に実施した出張展示「横山家住宅」では会場が足立区登録文化財ということもあり、展示品および同住宅に対する関心の高さがうかがえ、2日間でのべ918人の来場者があった。

イ 登録有形文化財の「舎人氷川神社本殿」では、12年ぶりの御開帳が催されたことに伴い、区学芸員が解説者として協力し、2日間で約2,100人の来場者があった。

ウ ア、イを受けて、過去の足立区の高い文化水準や、区の美術品の高い文化的な価値が事業を通じて区民へ伝わり、誇りへとつながったと考える。

【その他実績等】

ア 令和6年3月に刊行した文化遺産調査マンガ「ビビビ美アタチ」とタイアップし、電子展覧会を開催した。電子展覧会では、郷土博物館リニューアルに先駆け、新常設展示の資料を紹介するなど、今後の機運醸成を図った。

イ 伊興遺跡公園展示館での古代のものづくりイベントでは、子どもたちが勾玉づくりや火起こし体験をしながら古代を学ぶ機会を創出し、参加者はのべ1,211人と、令和5年の1,080人から28%増であった。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

ア 郷土博物館では、リニューアルオープニングイベントを契機に、千住宿開宿400年を盛り上げる展示などを検討し、千住宿開宿400年に向けた機運の醸成を図る。

イ 区文化財の保護と利活用の指針となる行動計画を令和7年度中に策定していくことで、貴重な文化財の減失・散逸等を防止していく。

【中長期の取り組み】

ア 区民や歴史研究者、郷土博物館協働グループなどの協力を得ながら、調査・収集・保存に努める。また、区内外を問わず人々の関心を引くPR方法を取り入れながら、積極的に活用していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（2次評価）	5	5	4	—
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 約2,100人の来場者があった「舎人氷川神社本殿御開帳」への解説協力など、タイミングを逃さず事業展開を行ったことによって、区民へ広く周知し、関心を得られたと考える。千住宿開宿400周年に向けても、郷土博物館の働きかけにより大いに盛り上げてほしい。 イ 「足立区の文化財や伝統芸能に触れたことのある区民の割合」は減少しているため、引き続き、郷土博物館休館中の出張展示などを継続して、区民が触れる機会を創出していただきたい。 ウ 郷土博物館の「電子展覧会」は、来館できない方もバーチャル体験により臨場感を味わいながら文化財を鑑賞できるものである。継続して興味を引き出すような、計画的な内容の更新に期待する。				
(2) 「今後の方向性」への評価 ア 郷土博物館による千住宿開宿400年を盛り上げる企画では、これまで郷土博物館へ関心がなかった方も興味を引かれるような、目新しい展開に期待する。 イ 文化財の保護と利活用の指針となる行動計画では、地域の歴史や文化の礎となる貴重な文化財を未来に継承するための制度の整備を期待する。				
(3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）	4	4	3	—
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 郷土博物館を中心に、区内の歴史的な文化資源を活用している点を評価したい。 イ より多くの子ども達が区内の文化に親しめるよう郷土博物館を見学できる事業を行って欲しいと思う。 ウ 「舎人氷川神社本殿」では、約2,100人もの来場者を記録するなど、区民をはじめとした来訪者の関心の高さがうかがえる。こうした文化財の一般公開やイベント化による利活用の成果は、地域文化への理解と誇りを醸成する点で非常に意義深い取り組みである。				
(2) 「今後の方向性」への評価 ア 郷土博物館が所有する貴重な文化財の更なる活用をしてほしい。そのためには区内外の機関や個人にも協力してもらいながら充実させてほしい。 イ 千住宿開宿400年に関連する展示を通じて、もっと郷土博物館の存在を知ってもらい、区民により足を運んでもらえるよう努めてほしい。 ウ 短期の取り組みについて、千住宿のイベントとコラボして行うなど具体的に記載している点を評価したい。 エ 文化財の見学イベントに加え、文化財の魅力を多角的に体感できる取り組みとして、見学と体験を融合させたプログラムの拡充が期待される。				
(3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。				

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	3	足立区の文化資源を次世代に継承する
施策名	3-2	地域の伝統芸能を継承・活性化させる
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

地域で受け継がれてきた伝統文化を知ることは、地域への愛着や誇りの醸成につながる。文化芸術団体の活動や地域のお祭り・お囃子など、足立区に根付いている魅力的な伝統文化の継承・活性化を支援していく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	足立区の文化財や伝統芸能に触れたことのある区民の割合【再掲】（施策3-1）							
指標の定義	3計画アンケートによる調査を実施 足立区内や住む地域の伝統芸能や文化財などを鑑賞したことがある区民の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	40.8%	実績値	40.8%	37.7%	44.5%	40.5%	-	(70.0%)
目標値（R8）	70.0%	達成率	-	53.9%	63.6%	57.9%	-	

指標名②	足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合【再掲】（施策3-1）							
指標の定義	3計画アンケートによる調査を実施 足立区の文化財・文化遺産・伝統文化を誇りに思う区民の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	31.6%	55.6%	60.0%	-	(70.0%)
目標値（R8）	70.0%	達成率	-	45.1%	79.4%	85.7%	-	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	1	0		1	0	0	2
%	50%	0%	0%	50%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
指標①実績値（44.5%→40.5%）は3計画アンケート未実施のため、令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を下回った。
指標②実績値（55.6%→60.0%）は3計画アンケート未実施のため、令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。

【要因分析】
ア 「伝統文化親子教室」は区内14箇所で開催し、参加者は301人と令和5年度の234人から28.6%増となった。
イ 「郷土芸能大会」では、16団体が出演し、区内のお囃子や獅子舞の発表と鑑賞の機会を創出した。そのほか、しょうぶまつり、区民祭りにおいてもお囃子演奏や体験を行い、来場者へ鑑賞の機会を提供した。

【その他実績等】
ア 「Japan Festa in ADACHI」では、足立区にまつわるオリジナル脚本の浅野温子氏による読み語りなど、子どもたちが地域の愛着や誇りの醸成につながるような機会を提供した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
ア お囃子演奏などの機会を千本桜まつりや、しょうぶまつり、区民まつり等のイベントや、リニューアル後の郷土博物館を会場として提供する。
イ 文化庁事業「伝統文化親子教室」の申請サポートを引き続き行い、子どもたちの体験機会を確保することで、地域への愛着や誇りの醸成につなげる。

【中長期の取り組み】
ア 文化芸術団体の活動や地域のお祭り・お囃子など、区に根付いている魅力的な伝統文化の継承・活性化を支援していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（２次評価）	3	3	3	－
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 「足立区の文化財・文化遺産・伝統芸能を誇りに思う区民の割合」は増加しているものの、「文化財や伝統芸能に触れたことのある区民の割合」は減少している。郷土博物館のリニューアルオープン以降は「郷土芸能鑑賞会」を再開させるなど、引き続き文化財や伝統芸能の鑑賞と体験ができる機会を提供してほしい。 イ 「Japan Festa in ADACHI」は、子どもたちが歌舞伎や能などの伝統文化を体験できる機会であり、足立区にまつわるオリジナル脚本の読み語りなど、地域への愛着や興味へつながる事業と考えられ評価できる。				
(2) 「今後の方向性」への評価 ア 区内の大きなイベントでお囃子などの演奏機会を提供することは、区民が伝統芸能などに気軽に触れられる貴重な機会の創出であり、次世代の継承につなげるためにも実施を期待する。				
(3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）	3	3	2	－
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 伝統文化親子教室・郷土芸能大会・しょうぶまつり、区民祭りでの鑑賞機会の提供などの取組みは評価できる。 イ 「伝統文化親子教室」は、家庭内で文化継承への関心を持つきっかけになっていて大変意義深い。引き続き安定的な開催とともに、参加枠や開催回数の拡大が期待される。				
(2) 「今後の方向性」への評価 ア 足立区は人口も増え転入者も多いので、子どもたちが伝統芸能などの鑑賞と体験ができる機会を増やして、次世代への継承が安定して行われるようにしてほしい。 イ 中長期の取り組みとして、すでに少子高齢化が進んできている中で、区がどのように伝統文化の継承・活性化を行っていくかを具体的に記載して欲しかった。 ウ 日本の伝統芸能は、単なる文化的教養にとどまらず、地域住民が自らの文化的ルーツや誇りを再認識する機会を提供するものであり、シビックプライド（地域への愛着や誇り）の醸成に大きく寄与する。今後は学校・地域団体との連携を含め、より多様な形式・対象での事業展開を図り、地域ぐるみで伝統芸能に触れられる環境づくりが期待される。				
(3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。				

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	4	文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する
施策名	4-1	足立区の文化的な魅力を効果的に情報発信する
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

文化芸術を身近に感じるためには、文化芸術に関する情報の充実も重要な要素となる。したがって、区内の文化芸術に関連する情報の集約を図りながら、広報紙やICTの活用により人々の関心を引く効果的な情報発信を行う。また、各学習センターにおいて、複合施設という特徴を活かし、3分野に関する情報を一体的に分かりやすくまとめ、情報誌やSNSを使った情報発信、スタッフとのコミュニケーションなど、より効果的な手法を選択して区民に届けていく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	文化芸術に関する情報発信に満足している区民の割合								
指標の定義	施設利用者アンケート及びイベント参加者アンケートにより実施 「文化芸術に関する区の情報発信に満足しているか」という質問を、５段階評価で行い、４と５を回答した人の割合（１：満足でない ～ ５：満足である）								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	18.8%	28.6%	46.7%	－		(80.0%)
目標値（R8）	80.0%	達成率	－	23.5%	35.8%	58.4%	－		

指標名②	足立区は文化芸術に親しめるまちと感じている区民の割合【再掲】（施策1-1）								
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術に親しめるまちであると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	30.3%	－	－	－		(80.0%)
目標値（R8）	80.0%	達成率	－	37.9%	－	－	－		

指標名③	情報の集約及び効果的情報発信								
指標の定義	ホームページに掲載したイベント数の年間アクセス数 「区ホームページ内の文化芸術に関連するイベントページが一年間で閲覧された数」								
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	41,583回	54,151回	71,433回	73,913回		(60,000回)
目標値（R8）	60,000回	達成率	－	69.3%	90.3%	119.1%	123.2%		

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	5	0	0	0	0	0	5
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等	
【達成状況】 令和5年度、令和6年度は3計画アンケート未実施 指標①実績値（28.6%→46.7%）は令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。 指標③は、（545,151回→71,433回）は、令和4年度を上回った。なお、令和8年度の目標値（60,000回）も上回った。 【要因分析】 ア 区ホームページの閲覧数は、全体的なイベント数が増加したことに加え、郷土博物館（9,809回）ではリニューアルオープンの情報や、休館中出張展示、「ビビビ美アダチ」刊行など、様々なページへのアクセスがあった。また、ADACHI障がい者アート（7,474回）は令和5年度の受賞者インタビュー記事や動画も引き続き掲載しており、令和6年度受賞者と合わせての閲覧があった。金工展では新たにワークショップを実施し、申込希望者等の閲覧数（4,691回）があり、アクセス数増につながった。 【その他実績等】 ア マンガを情報発信ツールの一つとして活用し、郷土博物館から「ビビビ美アダチ」を書籍として発刊した。郷土博物館を知らない方でも郷土博物館に興味を持ってもらえるよう、SNSや区長ブログの掲載などにより効果的な情報発信を図った。 イ 学習センターのミニコミ紙の発行に加え、SNSを活用して各センターの情報をタイムリーに発信している。LINEやInstagramを新たに導入するなどの取り組みにより、令和6年度はフォロワー数は14,101人と令和5年度の10,774から30.9%増となった。	
＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等	
【短期の取り組み】 ア 千住宿開宿400年を契機としたグッズなどの展開の際に、郷土博物館をPRし、郷土博物館への無関心層に関心を持ってもらうよう図る。 【中長期の取り組み】 ア 区内の文化芸術に関連する情報の集約を図りながら、広報紙やICTの活用により人々の関心を引く効果的な情報発信を行う。	
＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由	
令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。	

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（2次評価）	3	3	3	—
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 休館中の郷土博物館関連ホームページに多くのアクセスがあったことから、区民の潜在的な文化遺産等への関心がうかがえる。今後も区の所蔵する文化遺産等への周知につなげてほしい。 イ 各地域学習センターでのSNS発信に新たな発信ツールを追加したことは評価できる。今後の継続的な情報の更新などにも留意されたい。				
(2) 「今後の方向性」への評価 ア 千住宿開宿400年の事業では、ロゴを使うことによって、より統一した表現での周知が可能である。関連する様々な事業が当事業に該当することが区民にわかるよう周知することが大切である。				
(3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）	3	3	3	—
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 指標③は令和4年度を上回わり、さらに令和8年度の目標値（60,000回）も上回ったことを評価する。SNSの取組みやマンガを情報発信のツールの一つとして活用したことも評価できる。引き続き様々な方法で周知を行って欲しいと思う。 イ 学習センターが発行するミニコミ紙において、近年デザインの改善が図られたことは、視認性や親しみやすさの向上につながっており、情報伝達力の強化という点で大きな成果を上げている。区民にとって有益な情報が届きやすくなっている点は高く評価できる。				
(2) 「今後の方向性」への評価 ア 足立区の新住民も多いので、郷土博物館のPRや身近な地域の文化的魅力を学習センターのミニコミ紙などでも紹介するなど、指定管理者とも連携協力して、PRすることに期待したい。 イ 短期の取り組みについて、千住宿開宿400年を契機としたグッズ販売の際に関連して郷土博物館を紹介するなどの周知の方法は良いと思う。 ウ 区民により親しみを持ってもらい、文化・学習活動への関心を高めていくためには、キャッチコピーの工夫や、オリジナルグッズの活用など、日常的に接点を持てる仕掛けが効果的である。広報を単なる告知手段としてではなく、文化への入り口とするような発想で、今後さらに創造的かつ柔軟なアプローチが展開されることを期待したい。				
(3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。				

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

文化芸術計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	4	文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する
施策名	4-2	連携及び交流の機会を充実し、文化芸術の推進を図る
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

国の文化芸術推進基本計画では、「民間団体との連携を強化するなど、様々な主体と協調して、地方公共団体における文化芸術振興による創造性豊かな地域づくりを推進することも重要である。」とされている。 足立区内においても、様々なジャンルのアーティストや伝統ある文化芸術団体、私設の文化施設など、文化芸術に関する専門的な知識や技術を持つ主体が活躍している。それらの主体がゆるやかにつながるプラットフォームを形成し、足立区の文化芸術の活性化を図る。
--

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	足立区の連携事業及び交流の機会が充実していると感じている区民の割合							
指標の定義	施設利用者アンケート及びイベント参加者アンケートにより実施 「足立区の連携事業及び交流の機会が充実していると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：充実していない～5：充実している）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	15.2%	23.8%	-	-	(70.0%)
目標値（R8）	70.0%	達成率	-	21.7%	34.0%	-	-	

指標名②	足立区は文化芸術の推進に力を入れていると感じている区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術の推進に力を入れていると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	21.2%	39.7%	-	-	(70.0%)
目標値（R8）	70.0%	達成率	-	30.3%	56.7%	-	-	

指標名③	足立区の文化芸術の推進施策を評価できると感じている区民の割合							
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術の推進施策を評価できると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	19.1%	37.6%	53.4%	-	(70.0%)
目標値（R8）	70.0%	達成率	-	27.3%	53.7%	76.3%	-	

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	5	0	0	0	0	0	5
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等
【達成状況】 令和5年度、令和6年度は3計画アンケート未実施 指標③実績値（37.6%→53.4%）については3計画アンケート未実施のため、令和5年度は世論調査（小規模調査）を実施し、令和4年度を上回った。 【要因分析】 ア 国立劇場との協定によるシアター1010での文楽公演や文楽講座のほか、郷土博物館による古民家での出張展示など話題性の高い事業の実施と、令和5年度のIOKYO MXによる伊興遺跡公園での韓式土器の区長紹介や、区の文化遺産が令和4年度の美術誌「国華」に掲載されるなどの宣伝効果が、施策を評価する区民の割合に影響をが向上したと考えられる。 【その他実績等】 ア 文化サロン「仲町の家」では、年間を通し土・日・月・祝日に開室。歴史ある日本家屋に着想を得たアーティストや学生等によって開催されたパイロットプログラムは過去最高となる合計28事業と、令和5年度の23事業から21.7%増となった。また、主催事業の各プログラムの会場や企画相談窓口として活用されたほか、新規事業として未就学児と保護者を対象とした「マンデー・ベイベー・コンサート」を12回開催した。 イ 生涯学習振興公社が発行するパンフレットは、令和5年度にはデザインを刷新し、5つの民間文化施設を会場とした「動画で見るコンサートinミュージアム」のQRコードを加えるなど、民間文化施設を支援した。 ウ 東京藝術大学と連携し、ギャラクシティの「まるちたいけんドーム」（プラネタリウム）でアウトリーチコンサートを実施した。「音楽」と「星空」のコラボにより定員170名の募集枠に494名の応募があった。
＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等
【短期の取り組み】 ア 平成23年から令和5年2月まで86回に渡り実施した「アートリンクカフェ」では、多くのアーティストたちとの交流が生まれ様々な発想が生まれた。そこでの交流から、足立ゆかりのアーティスト達による「アートリンクフェスティバル」をギャラクシティにて開催し、ワークショップやアーティストの共演などを実施する。 【中長期の取り組み】 ア 区内の様々なジャンルのアーティストや伝統ある文化芸術団体、民間文化施設など、文化芸術に関する専門的な知識や技術を持つ主体がゆるやかに連携し、区の文化芸術が活性化するよう図る。
＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由
令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（2次評価）	3	3	2	—
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 令和5年度は3分野アンケートは行っていないが、「足立区の連携事業および交流の機会が充実していると感じている区民の割合」の過去の結果は目標値と乖離があるように感じる。区民のニーズや事業の方向性などを精査しながら、指標や目標値の検討が必要ではないか。 イ 東京藝術大学と連携したアウトリーチコンサートには定員を大きく超える応募があり、質の高い音楽を身近で触れられる機会に魅力があると感じる。今後も事業を継続するなかで、さらに大きな会場での実施など多くの区民が楽しめる展開を期待する。				
(2) 「今後の方向性」への評価 ア 伝統芸能保存会や文化団体連合会、音楽団体、民間文化施設など、既にあるプラットフォームを活性化し、創造性豊かな地域づくりに向けて取り組んでほしい。				
(3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）	3	3	3	—
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 東京藝大との連携事業など定員を大きく超える応募があるが、人気のある事業には枠を増やしてより多くの区民が参加できるように工夫して欲しいと思う。 イ 専門性が高く質の良い文化機関と連携した取り組みが展開され、多くの区民に多彩な文化芸術事業が届けられている点は非常に高く評価できる。一方で、アンケート結果で認知度や参加意欲が低調である点は、広報・発信手法や参加者層の拡大において引き続き工夫が必要であることを示している。事業の質に見合った参加・周知の在り方が今後の課題といえる。				
(2) 「今後の方向性」への評価 ア 区内の様々なジャンルのアーティストや伝統ある文化芸術団体、民間文化施設など、文化芸術に関する人材が、個々の立場や活動の負担にならない範囲でゆるやかに連携を図り活性化を目指すことは評価できる。 イ 短期の取り組みについて、ギャラクシティにて「アートリンクフェスティバル」を開催予定とあるが、ギャラクシティの改修工事中の取り組みなども記載して欲しかった。 ウ 地域の民間アート団体との連携を活性化させるうえで、行政と個別団体のあいだを橋渡しするような中間支援的な組織や仕組みの存在が重要だと感じられる。マッチング、情報共有、人材育成、ネットワーク形成などを担う中間団体が機能すれば、地域の多様な文化活動の底上げと、区全体の文化力の強化につながる。今後の組織設計や制度整備において、こうした視点が取り入れられることを期待したい。				
(3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。				

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による助言」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	1-1	乳幼児が本に親しむ機会の充実
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

乳幼児期に本に親しむことは言葉を覚えるだけでなく、将来の読書習慣の基礎となる。加えて、本を通じて親子がふれあうことで、子どもの愛着形成等にもつながる。
区立図書館や保育園等で、乳幼児が本に親しむ取り組みを行うとともに、子育て支援事業や乳幼児健診の機会を捉え、乳幼児が本に触れる機会を作っていく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	親子で一緒に本を読んでいる割合（3歳児）							
指標の定義	3歳児健診時に実施するあだちはじめてえほんアンケートで、「親子で一緒に本を読んでいる」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	86.9%	実績値	86.9%	91.5%	89.7%	91.5%	89.2%	97.0%
目標値（R8）	97.0%	達成率	89.6%	94.3%	92.5%	94.3%	92.0%	

指標名②	親子で一緒に本を読んでいる割合（4・5歳児）							
指標の定義	4～5歳児を対象とした、生活・ベジタベアンケートで、「親子で絵本を読む」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	75.5%	実績値	75.5%	77.1%	79.6%	80.0%	77.5%	80.0%
目標値（R8）	80.0%	達成率	94.4%	96.4%	99.5%	100.0%	96.9%	

指標名③	1か月間に本を読んだ就学前児童の割合							
指標の定義	4～5歳児を対象とした、生活・ベジタベアンケートで、「本を一人で見たり読んだりする」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	83.9%	実績値	83.9%	77.2%	77.6%	74.8%	73.4%	88.0%
目標値（R8）	88.0%	達成率	95.3%	87.7%	88.2%	85.0%	83.4%	

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	9	0	0	0	0	0	9
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（91.5%→89.2%）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（97.0%）を下回った。

指標②実績値（80.0%→77.5%）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（80.0%）も下回った。

指標③実績値（74.8%→73.4%）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（88.0%）も下回った。

【要因分析】

(1) 指標①②については、図書館館内でのおはなし会やアウトリーチ事業によって気軽に絵本を楽しめる環境を提供しているが、乳幼児期に本に親しむ大切さをさらにPRしていくことが重要であると考えられる。

(2) 指標③については、各保育・教育施設での読み語りや食育月間に合わせた図書館での啓発品の配付と併せた特集本の展示、年齢に合わせた本の紹介等をさらに推進していくことが重要であると考えられる。

【その他実績等】

(1) 「あだちはじめてえほん」事業（3～4か月児）において、健診対象者約4,000人に絵本の配付とあわせて仮登録した貸出カードを配付し、図書館への来館につなげた（216人が図書館で本登録）。

(2) 妊娠期・子育て期から保護者が本に親しみ、子どもの読書活動にも関心をもってもらう機会として、プレママ・プレパパ向けの読み語りイベントをR6年度に初めて実施した。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) 親子で本に親しめる環境を提供するため、アウトリーチ事業のほか、各図書館や保育園、子育てサロン等におけるおはなし会を継続して実施していく。

(2) 「あだちはじめてえほん」事業について、1歳6か月児の絵本引換率の向上を図るため、引換率の低い保健センター2か所（中央本町、東部）での出張配付を継続していきながら、引き続き引換率の向上を図っていく。

【中長期の取り組み】

(1) 親子で一緒に読書への関心を高めていくための事業として、妊娠期・子育て期から保護者が本に親しみを持ってもらえる機会の提供をイベント等を通じて今後も継続して行っていく。

(2) 「あだちはじめてえほん」事業については、事業開始から10年が経過したことを踏まえ、絵本のテーマ等に留意しながら、配付絵本の一部入替についても検討していく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	－

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 指標①②③の実績値が僅かであるが減に転じたことは残念である。保護者が本に親しみ、子どもの読書活動にも関心を持ってもらう機会の提供を、妊娠期・子育て期から積極的に実施して欲しい。
- イ 計画改定に伴い新たに盛り込んだプレママ・プレパパ向けの読み語りイベントを、R7年2月に早速実施したことは評価に値する。引き続き内容の充実を図るとともに、まだ子どもの読書への関心があまり高くない妊娠期の保護者への情報発信を工夫してほしい。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 長年低迷していた「あだちはじめてえほん事業」の1歳6か月の引換率が、出張配付の実施によって大幅に向上したことは評価できる。R7年度からは、すこやかプラザの開設により江北での引換率が向上することが見込まれるため、引き続き状況を注視しながら引換率の向上を図ってほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	－

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 指標①②③がともに減少し、目標値を下回ったことは残念。
- イ これまで議論されてきた事業の周知について、昨年度よりも各事業で対策が立てられている。更なる周知や事業拡大に期待する。
- ウ 新規でプレママ・プレパパ向けの読み語りイベントを実施したことは評価できる。
- エ 様々なアウトリーチ事業は概ね目標を達成しており評価できるが、保護者の読書の関心や読み語りにはつながっていない面が見受けられる。
- オ 幼稚園、保育園、こども園への貸出の推進は、積極的に推進してほしい。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 現状の施策を継続しつつ、スモールアクションでよいのでより良くしてほしい。各園での貸出コーナーの整備や、あだちはじめてえほん配付時のブックリストの充実期待する。
- イ 「出産前・乳児期からの読み読みの推進」はとても重要。母子手帳発行時や産前講座での促進、子育て家庭訪問事業との連携など、今後の展開に期待したい。
- ウ あだちはじめてえほんの見直しをし、配付する絵本が保護者にとって魅力的である必要がある。
- エ 外に出てこない親や子どもにどう伝えていくかがより重要であるため、区民が受動的に受け取れる情報発信方法を検討してほしい。
- オ 区の他部署や保育園、幼稚園との連携、民間機関とのコラボレーションを進めてほしい。
- カ 「親子で一緒」だけでなく、特に「親に向けた」施策を計画してはどうか。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	1-2	子どもの読書習慣が身に付く活動の推進
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

子どもの頃からの読書経験は習慣として将来に引き継がれる。幼児期から言葉の発達や関心の広がりに応じて読書を楽しむことで、読書習慣を身につける機会を作っていく。
そのために区立図書館や幼稚園、保育園、こども園、小中学校、児童館などの子育て施設で、おはなし会や朝読などの読書活動を推進する。また、図書館の利用を通じて将来にわたる読書機会の提供に努める。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	1か月間に本を読まなかった児童の割合（小学5年生）【低減目標】							
指標の定義	1か月間に本を読まなかった小学校5年生の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	23.7%	実績値	23.7%	24.2%	26.9%	29.7%	29.3%	23.0%
目標値（R8）	23.0%	達成率	97.0%	95.0%	85.5%	77.4%	78.5%	

指標名②	1か月間に本を読まなかった生徒の割合（中学2年生）【低減目標】							
指標の定義	1か月間に本を読まなかった中学校2年生の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	39.5%	実績値	39.5%	38.7%	36.5%	40.4%	42.7%	39.0%
目標値（R8）	39.0%	達成率	98.7%	100.8%	106.8%	96.5%	91.3%	

指標名③	小学生に占める登録者割合							
指標の定義	（算出式） $A \div B$ A 小学生の学齢の区立図書館登録者数計 B 足立区の小学生の児童数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	-	45.8%	34.5%	38.9%	40.3%	50.0%
目標値（R8）	50.0%	達成率	-	91.6%	69.0%	77.8%	80.6%	

指標名④	中学生に占める登録者割合							
指標の定義	（算出式） $A \div B$ A 中学生の学齢の区立図書館登録者数計 B 足立区の中学生の生徒数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	-	80.9%	40.1%	46.9%	52.3%	85.0%
目標値（R8）	85.0%	達成率	-	95.2%	47.2%	55.2%	61.5%	

指標名⑤	児童書の貸出冊数							
指標の定義	区立図書館における、児童書の貸出冊数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	1,187,936冊	実績値	1,187,936冊	1,227,774冊	1,103,971冊	1,027,950冊	946,148冊	1,280,000冊
目標値（R8）	1,280,000冊	達成率	92.8%	95.9%	86.2%	80.3%	73.9%	

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	8	2	2	0	0	0	12
%	67%	17%	17%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（29.7%→29.3%）はR5年度からほぼ横ばいで、R8年度の目標値（23.0%）に届かなかった。
指標②実績値（40.4%→42.7%）はR5年度から増となり、R8年度の目標値（39.0%）に届かなかった。
指標③実績値（38.9%→40.3%）はR5年度を上回ったが、R8年度の目標値（50.0%）は下回った。
指標④実績値（46.9%→52.3%）はR5年度を上回ったが、R8年度の目標値（85.0%）は下回った。
指標⑤実績値（1,027,950冊→946,148冊）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（1,280,000冊）も下回った。

※ 指標①、②は低減目標。

【要因分析】

（1）指標⑤については、貸出数減少の要因として、閲覧席のみの利用が増加しているほか、余暇活動の多様化やインターネット（電子書籍を含む）の普及が影響していることが考えられる。なお、児童書だけではなく一般書も貸出数が減少し続けている。

【その他実績等】

（1）出張おはなし会（628回・12,778人→476回・13,159人）や読み語り講座（4回・105人→8回・258人参加）など、昨年度の参加人数を上回った。
（2）あだち読書通帳について、配付場所の拡大や司書教諭及び学校図書館支援員への周知の強化により、R5年度と比べて配付冊数が大幅に伸びた（親子用3,676冊、小学生用1,693冊の増）。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- (1) アウトリーチ事業のほか、おはなし会や出張おはなし会等のイベントを積極的に実施し、本に触れる機会を増やし、子どもの読書習慣の定着を図っていく。
- (2) R7年度途中から、あだち読書通帳に50冊分の本のタイトルを記録した子どもにペットボトルカバーのプレゼントを開始し、子どもたちのモチベーション向上と読書通帳のさらなる利用促進を図っていく。

【中長期の取り組み】

- (1) 図書館だけでなく、親子連れが多い商業施設でのアウトリーチ事業の実施や、保育園や児童館などの子育て施設や学校における年齢に応じた本の紹介やおはなし会を行い、読書習慣の定着へとつなげていく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（2次評価）	4	3	4	-

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア 児童書の貸出冊数が3年連続で減少したことについては、残念な結果である。乳幼児期からの読書習慣の定着が重要であるため、減少の背景について分析を行い、改善を図ってほしい。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 子育て施設や学校と連携し、出張おはなし会を実施するなど、本に触れる機会を増やすことで、子どもにとって本が身近なものとなるきっかけとなり、評価できる。
- イ おはなし会や映画会などを積極的に実施し、子どもたちが本に触れる機会が増え、指標の改善につながることを期待する。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）	4	3	4	-

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 指標②が前年度と比べて増加している点、指標③④が前年より伸び率が減少している点、指標⑤は減少が続く目標を大きく下回った点は、残念である。指標①②⑤については、目標値に届かなかった理由を施設ごとに振り返ってほしい。
- イ 出張おはなし会については、小学校・児童館での実施が減っていることが残念。目標値が大きすぎたのではないかと感じる。実施回数を増やすためにはボランティアの育成が必要であると思われるので、その対策を検討してほしい。
- ウ 児童館との連携には課題が見受けられる。おはなし会以外の施策を検討する必要がある。
- エ あだち読書通帳の配付冊数が大幅に伸びた努力は評価できる。
- オ 指標③④⑤については、参考となる指標ではあるが、施策課題である「機会の充実、活動の推進」を計るために適当かは今後検討を要するものとする。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 親の目が離れていく児童・生徒に対し、より積極的な働きかけを検討する必要がある。本に触れるだけでは読書習慣の定着を図ることは難しいため、例えばビブリオバトルや本を紹介するPOP作り等の参加型の事業や、「家読（うちどく）」の普及・啓発をしてはどうか。
- イ 児童館ではイベントとしての面白さを、放課後子ども教室では子どもが興味を持つアプローチを工夫してほしい。
- ウ 一方で、施策の中心が読書の楽しさに偏る傾向にあるため、「機能的読書」の周知・習得に関する施策も検討してほしい。
- エ あだち読書通帳のプレゼントについては、インセンティブをつけても面白いと思う。
- オ 成人層の図書館貸出・利用も減少傾向にあるなか、今後の方向性については既存の図書館評価指標や「あるべき図書のすがた」の見直しと並行して検討する必要がある。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会助言に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	1ー3	子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

区立図書館や幼稚園等の施設で、子どもに読書の楽しさを伝えるとともに、保護者にも自らが本を楽しむことや読書に関心を持つことが子どもの読書習慣に影響することを伝えていく。また、親子で読書に親しめるよう、成長や発達段階に応じた本や子育て期に読める本の紹介を進めていく。さらには出産前の保護者への情報提供など、場や機会、インターネットの活用など多様なチャンネルを通じた取り組みを工夫し進めていく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	子どもの読書と保護者の読書の関連を知っている保護者の割合													
指標の定義	1歳6か月児及び3歳児健診に実施する、あだちはじめてえほんアンケートで「子どもの読書冊数が、母親など身近な大人の読書冊数と関係があることを知っている」方の割合													
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8					
現状値（H30）	41.6%	実績値	41.6%	51.7%	52.0%	56.3%	54.1%							80.0%
目標値（R8）	80.0%	達成率	52.0%	64.6%	65.0%	70.4%	67.6%							

指標名②	親子で一緒に本を読んでいる割合 ※施策1-1の再掲									
指標の定義										
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
現状値（H30）		実績値								
目標値（R8）		達成率								

指標名③	1 か月間に本を読んだ就学前児童の割合 ※施策1-1の再掲									
指標の定義										
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
現状値（H30）		実績値								
目標値（R8）		達成率								

指標名④	1 か月間に本を読まなかった児童・生徒の割合 ※施策1-2の再掲									
指標の定義										
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
現状値（H30）		実績値								
目標値（R8）		達成率								

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	7	4	0	0	0	2	13
%	54%	31%	0%	0%	0%	15%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（56.3%→54.1%）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（80.0%）は下回った。

【要因分析】

指標①については、「あだちはじめてえほん」におけるチラシでのPRや、学校だより等で読書の大切さを保護者に伝える取り組みを行っているものの、本に興味のない保護者へ向けたPRが十分でなかったと考えられる。

【その他実績等】

- 「あだちはじめてえほん」事業のアンケートで、「ほとんど本を読まない」保護者の割合は、R5年度と比較し、ほぼ横ばいであった（3・4か月児：37.5%→40.5%、1歳6か月児：44.5%→41.9%、3歳児：40.7%→41.6%）。
- 紙面の見やすさ向上のため、R6年度から、小学生向け図書館情報紙「あつまれおもしろい本」のサイズをA4版からA3版に拡大した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 乳幼児については、アウトリーチ事業をはじめ、親子で楽しめる本の紹介やおはなし会の実施等により親子で読書に親しめる機会を増やしていく。
- 小・中学生については、読みやすい本や手に取って読んでみたくなる本を「あつまれおもしろい本」「ティーンズコープ」等で紹介し、普段読書をしない生徒・児童へ本に親しむきっかけづくりを行う。

【中長期の取り組み】

- 「身近な大人の読書冊数との関連性」を周知するチラシを作成し、イベントで配布するなど、本に興味のない保護者にも幅広く周知していく。
- 本に関する情報を得やすいよう、紙媒体での図書館情報誌の配布に加え、インターネットを活用した情報提供を検討をしていく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	－

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

- (1) 「現在の達成状況」への評価
- ア 指標①「身近な大人の読書冊数との関連性」の認知率が低下したのは残念な結果である。より効果的なPR方法を検討してほしい。
 - イ 指標①については、R8年度目標値との乖離が大きく、目標達成は現実的に厳しいと思われる。現状を分析の上、R9年度からの新計画の策定作業の中で目標設定の見直しを図ってほしい。
- (2) 「今後の方向性」への評価
- ア アウトリーチ事業等におけるチラシ配布のほか、本に触れる機会の少ない保護者にも届くようなアプローチ方法の工夫に期待する。
 - イ 子どもへの本の紹介にあたっては、読みやすい本、年齢や発達段階に応じた本などを紹介し、本に親しみきっかけづくりの充実を図ってほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	－

5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）

- (1) 「現在の達成状況」への評価
- ア 「各保健センターでの絵本の読み語り」「プレママ・プレパパのための啓発事業」の未実施は残念。「身近な大人の読書冊数との関係」についての認知は依然として低いままである。保護者が読書をするのが子どもの読書習慣を作るということをもっとしっかりと認知させる必要がある。
 - イ 区立図書館での親子おはなし会の参加者数や中学生体験学習の受入れ数、読書週間事業の参加者数は横ばい状態で目標値を下回っており残念である。
- (2) 「今後の方向性」への評価
- ア 子どもへのアプローチとして、「子ども一日図書館員の実施」や「中学生体験学習の受入れ」などは、子どもたちがワクワクしながら参加出来る事業展開にしてみたい。実際に体験することで図書館や本を身近に感じてもらう取り組みの強化にも期待する。
 - イ 「プレママ・プレパパのための啓発事業」については、積極的に実施してほしい。「母子手帳と共に絵本を手渡す」マタニティブック事業などを新規で立ち上げてみてはいかがだろうか。
 - ウ 「各保健センターでの絵本の読み語り」はコロナ前同様にぜひ実施してほしい。現状実施しているようなおはなし会などは継続して続けてほしいが、時間を2部制にするなど参加者数をみながら日時も調整してほしい。
 - エ インターネットを活用した情報提供等、区民が受動的に情報を受け取れる体制もぜひ築いてほしい。乳幼児から大人にいたるライフステージごとに、どんな絵本や本を選べばいいのか、簡単にわかる情報発信ツールがあると、読書がより身近になるのではないかな。
 - オ 前例踏襲的なイベントとならないよう、時期や話題性に即した内容の工夫と、目に見える読書の効用を説明した広報活動を検討してほしい。
- (3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	1ー4	本に親しみ、学ぶための学校図書館の充実と活用
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

学校図書館は、読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能、学習活動の支援や、授業の内容を豊かにしてその理解を深める「学習センター」としての機能、情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての機能を有する。

また、今後の学校図書館には、様々な場面での利活用を通じて、「主体的・対話的で、深い学びの実現」や「言語能力や情報活用能力、問題解決能力等の育成」を支える役割が期待される。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	小学生一人当たりの本の年間貸出数							
指標の定義	学校図書館での小学生一人当たりの本の年間貸出数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	30冊	実績値	30冊	41冊	45冊	47冊	48冊	36冊
目標値（R8）	36冊	達成率	83.3%	112.8%	125.6%	129.7%	132.5%	

指標名②	中学生の学校図書館の利用割合							
指標の定義	1か月の間に学校図書館を利用している生徒の割合 (重複あり 延べ利用者数÷生徒数)							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	141.0%	実績値	141.0%	85.7%	112.2%	131.1%	137.9%	170.0%
目標値（R8）	170.0%	達成率	82.9%	50.4%	66.0%	77.1%	81.1%	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	8	1	0	0	0	0	9
%	89%	11%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（47冊→48冊）はR5年度を上回り、R8年度の目標値（36冊）も上回った。

指標②実績値（131.1%→137.9%）はR5年度を上回ったが、R8年度の目標値（170.0%）は下回った。

【要因分析】

- 指標①に関しては学校図書館支援員の配置日数拡充（2/3の学校を週2日から4日に変更）により、児童の学校図書館の利用機会が増えたことが要因と推察される。
- 指標②に関しては、学校図書館スーパーバイザー等による巡回指導や学校司書への研修等の充実により、学校図書館の環境整備が進んだ効果が現れた結果と推察される。

【その他実績等】

- 学校図書館スーパーバイザーの人員増により、校内研修や提案授業の実施回数を増やし、より具体的に学校図書館の活用策を学校教員に提示することができた。
- 学校巡回司書の新設により、学校司書への支援を充実したほか、学校司書の地区別連絡会を実施し、好事例の共有や課題を相談できる機会を設けることで、さらなる専門性の向上を図った。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 学校図書館支援のアクションプランを策定し、学校図書館の「学習センター機能」への支援に重点をおくことを明確に示した。各校へ周知し、学校図書館の活用推進を図る。また、巡回訪問や研修会・地区別連絡会の内容を充実させることで、学校司書のさらなる専門性向上を図る。
- 小学校は図書館支援員は、R7年度にはすべての小学校に週4日配置し、調べ学習等授業支援の機会増加による学習活動の充実や魅力ある図書資料の展示及び掲示、図書資料の整理に注力していく。
- 学校図書館利活用推進校（R6年度小学校9校、中学校2校から、小学校12校、中学校3校に拡充）を中心に、学校図書館スーパーバイザーによる助言・支援を通じて、学習における学校図書館の活用を進め、好事例を積み上げ他校への展開を図っていく。あわせて、学校図書館を学習活動で利用しやすくするため、レイアウト変更や備品の更新、蔵書の充実を進めていく。

【中長期の取り組み】

- 読書が好きな子どもたちを増やしていくために、学校図書館のさらなる環境整備や蔵書の充実に向けた取り組みを進めていく。
- 児童・生徒が自ら学びを深め、言語能力や情報活用能力などの資質・能力の育成に繋げていくため、各小中学校において授業での積極的な学校図書館活用を促し、探究的な学習を推進していく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（2次評価）	4	4	4	－
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 小学校については、貸出冊数を伸ばすことが出来ており、派遣事業の定着により支援員と教員が連携した学校図書館の活用が進んでいると評価できる。 イ 中学校については、コロナ禍以前の水準まで利用が回復しつつあり、学校司書や図書担当教員への支援の取組みの成果が見て取れる。R8年度の目標とはまだ開きがあるので、さらなる利用促進に向けて、教員や学校司書への支援・啓発を一層充実させていくことを期待する。 (2) 「今後の方向性」への評価 ア 多くの児童・生徒が本に親しみ、読書好きの子どもたちを増やしていくために、読書活動及び学習活動の場面で利用しやすい魅力的な学校図書館の整備を進めてほしい。 イ 学校図書館スーパーバイザーや学校巡回司書を効果的に活用し、学習の場面における学校図書館利活用を促進し、子どもたちの「調べて知る喜び」の体験から「主体的・対話的で深い学び」の実現に繋げてほしい。 (3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）	4	4	4	－
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 学校図書館支援員の配置日数の拡充や派遣事業の定着等、学校図書館の整備・利活用が進められており、子どもたちの読書環境づくりにつながっていると思う。 イ 指標①及びおよび指標②が伸びていることも評価したい。 ウ 学校図書館スーパーバイザーや学校巡回司書が持っているノウハウを、学校全体や保護者にも情報共有していくことが、学校図書館の活用には肝要ではないか。 エ 新規の調べ学習用図書資料配送サービス事業は、図書館との連携事業であり、児童生徒の調べ学習を進めるのもいいのでは。「学校の中でお気に入りの場所」「落ち着ける場所」と思ってもらえるような心の拠り所としての機能も高めてほしい。 ウ 「学校図書館の図書資料の充実と整備」に関しては、学校図書館図書標準という古い基準であることから時代に即していない可能性がある。そのため、蔵書データを廃棄基準と突合し、質の向上を目指す基準を設定してはいかがだろうか。また、AIの普及等により学校図書館の資料をどのように学習活動に活かせるかも再考する必要があると思う。 (2) 「今後の方向性」への評価 ア 学校図書館の活用推進策については、学校図書館支援のアクションプランに基づいた具体的な案が示されており評価できる。 イ 子どもたちの意見を聞き、図書館運営に活かすのはどうか。学校ごとに特色のある図書館づくりを進めるのもいいのでは。「学校の中でお気に入りの場所」「落ち着ける場所」と思ってもらえるような心の拠り所としての機能も高めてほしい。 ウ 「学校図書館の図書資料の充実と整備」に関しては、学校図書館図書標準という古い基準であることから時代に即していない可能性がある。そのため、蔵書データを廃棄基準と突合し、質の向上を目指す基準を設定してはいかがだろうか。また、AIの普及等により学校図書館の資料をどのように学習活動に活かせるかも再考する必要があると思う。 (3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。				

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	2	区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実
施策名	2-1	区立図書館資料の充実と活用
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

区民の多様な関心に応え、幅広い知識や考え方等に触れられるよう、区立図書館の資料を充実させる。子どもに向けては児童資料や調べ学習のための資料などの充実を図っていく。時事に合わせたテーマや地域課題の特集などを積極的に行い、区民の関心を高める工夫を行う。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	区民一人当たりの図書資料貸出数							
指標の定義	(算出式) $A \div B$ A 図書資料貸出数 B 足立区の総人口							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	4.8冊	実績値	4.8冊	4.5冊	4.2冊	4.0冊	3.7冊	6.0冊
目標値 (R8)	6.0冊	達成率	80.0%	75.0%	70.0%	66.7%	61.7%	

指標名②	展示コーナー（特集棚）の本の貸出率							
指標の定義	時事に合わせた課題や地域課題を特集した、展示コーナーの本の貸出率							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	新規	実績値	-	145.0%	125.5%	134.4%	146.0%	150.0%
目標値 (R8)	150.0%	達成率	-	96.7%	83.7%	89.6%	97.3%	

指標名③	電子書籍（「あだち電子図書館」）の貸出回数							
指標の定義	電子書籍の年間貸出回数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値 (H30)	-	実績値	-	13,680回	17,845回	28,390回	25,407回	45,000回
目標値 (R8)	45,000回	達成率	-	30.4%	39.7%	63.1%	56.5%	

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	4	0	0	0	0	0	4
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（4.0冊→3.7冊）は前年度を下回り、R8年度の目標値（6.0冊）も下回った。
指標②実績値（134.4%→146.0%）は前年度を上回ったが、R8年度の目標値（150.0%）を下回った。
指標③実績値（28,390回→25,407回）は前年度を下回り、R8年度の目標値（45,000回）も下回った。

【要因分析】

- 指標①については、主な図書貸出数減少の要因として、閲覧席のみの利用が増加しているほか、余暇活動の多様化やインターネット（電子書籍を含む）の普及が影響していることが考えられる。
- 指標②については、庁内と連携した施策連携特集（年間20テーマ）を全館で実施し、関連本の展示に加え、啓発物品やパネル展示などを実施した。利用者にPRが効果的に伝わり、展示コーナーの本の貸出率の上昇につながったと考えられる（展示冊数45,485冊、貸出冊数64,604冊）。
- 指標③の減については、R4から5年度にかけて実施した小中学生向けのあだち電子図書館体験キャンペーンの効果によりR5年度の利用回数が一時的に大幅増となったことの影響によるものである（同キャンペーン分を除いた貸出回数で比較すると、R6年度は約25%伸びている（20,204回→25,047回））。

【その他実績等】

- 「あだち電子図書館」については、引き続き蔵書の拡大に努め（R5年度6,534タイトル→R6年度7,198タイトル）、図書館に来館しなくても絵本に親しむことができるサービスを提供した（R6年度貸出25,407回）。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 電子書籍については引き続き蔵書の充実に努めるとともに、R7年6月から開始した学校授業における多人数視聴の利活用が進むよう、教員へのPRを図っていく。また、一時的なキャンペーンではなく、継続的に区立中学校全生徒および区立小学校5、6年生の全児童が電子図書館を利用できる仕組みを検討していく。
- 庁内関係所管との連携による「図書館×〇〇特集」について、あだち広報やホームページ、SNSの活用により積極的なPRを展開する。

【中長期の取り組み】

- R7年6月に策定した「図書館サービスデザインアクションプラン」に基づき、足立区に関連する資料の積極的な収集に加え、漫画や電子媒体など時代に合わせた資料の収集も意識して、図書館資料の収集方針や基準の見直しを進めていく。
- あだち電子図書館については、R8年度の目標所蔵数（8,000冊）を達成する見込みである。R9年度以降の収集方針について、メインターゲットの見直しも含めて検討していく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	2	3	-

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 「区民一人当たりの図書資料貸出数」が3年連続で減少していることは残念な結果である。子ども・子育て世代の貸出が減となった背景について、分析を継続して改善を図ってほしい。
- イ 関連本の展示に加え、啓発物品やパネル展示などを実施し、区民が本を手に取りやすくなる方向性は評価できる。今後の継続的な取り組みを期待する。
- ウ 電子書籍（あだち電子図書館）の貸出回数はR4年度と比較すると増加しており、一定の評価ができる。引き続き貸出しの増に努めてほしい。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 利用者目線に立った展示コーナーの名称変更により、読書に関心がない人が本を手取るきっかけとなることが期待できる。いかに関心を引けるかがポイントとなるため、引き続き、テーマ設定や展示の見せ方に工夫を図ってほしい。
- イ 電子書籍については、学校における利用が促進されるような取り組みは評価できる。引き続き学校との連携を図ってほしい。小中学生の継続的な利用については、タブレットを活用するなど、DXの視点も取り入れた検討に期待する。
- ウ 図書館資料の収集方針や基準を適切に見直しを行うことで、次世代の足立区民に残す蔵書の構築に努めてほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	-

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 区民一人当たりの貸出冊数が減っていることは残念であり、世代や地域ごとに推移の変化が分析できるとよい。一方で、公共図書館としては平均的な水準であり、過剰に低評価する必要はない。
- イ 展示コーナーの貸出率が上がっていることは評価できる。常に季節に応じて楽しい企画をしているおかげだと思う。図書館の魅力を前面に出せる魅力的な施策であり、庁内と連携した特集を全館で実施したことも評価できる。
- ウ 図書館に来館しなくても絵本に親しむことができる電子書籍の拡大は一定の評価ができる。貸出冊数の評価基準に電子書籍の貸出数も合わせた評価としてはいかがか。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 時代の流れからして電子書籍の活用について区民に向けたPRをもっとすべきではないか。提供対象の拡大も検討してほしい。また、操作が苦手な方のために利用方法の講習会を実施するなど、積極的に周知してほしい。
- イ 庁内との連携強化による特集展示の強化はより積極的に実施してほしい。
- ウ 短期的な児童生徒への取り組みについては具体的で評価できるが、大人に対する取り組みが不十分であると思う。オーダーメイドで本を選書してくれるサービスや、あらかじめテーマごとにお薦め本がまとめてあったりする企画、大人向けの読書通帳等、来館者が本を借りたくなるような仕掛けも検討してほしい。
- エ 「様々な余暇活動がある中、どのように本に親しみを持ってもらうか」というテーマはとても重要であるため、より深い議論をすべきだと思う。
- オ 図書館外での広報活動により力を入れてほしい。館外での広報活動からのフィードバックが「利用される図書館」形成の大きなヒントとなる。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	2	区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実
施策名	2-2	障がいや言語などにかかわらず読書に親しめる図書資料などの整備
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

障がいのある方や高齢の方などの読書に対するニーズに対応して、資料整備やサービスの充実を図る。
 外国語の本や大活字本などの充実とともに、障がいや高齢などの理由で区立図書館に足を運べない方を対象に、図書資料の宅配サービスを拡充する。
 さらに電子書籍の導入・活用も検討し、図書館にアクセスしにくい人々も本に親しめる環境を目指す。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	障がい者向け図書資料宅配サービスの貸出冊数							
指標の定義	図書資料宅配サービスによる、貸出冊数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	76冊	実績値	76冊	367冊	418冊	979冊	789冊	500冊
目標値（R8）	500冊	達成率	15.2%	73.4%	83.6%	195.8%	157.8%	

指標名②	種類別（大活字本、外国語図書など）の貸出冊数							
指標の定義	大活字本、外国語図書などの貸出冊数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	22,443冊	実績値	22,443冊	22,241冊	22,685冊	21,597冊	21,058冊	29,000冊
目標値（R8）	29,000冊	達成率	77.4%	76.7%	78.2%	74.5%	72.6%	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	6	1	1	0	1	0	9
%	67%	11%	11%	0%	11%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（979冊→789冊）はR5年度を下回ったものの、R8年度の目標値（500冊）は大きく上回った。

指標②実績値（21,597冊→21,058冊）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（29,000冊）を下回った。

【要因分析】

（1）指標①については、貸出ルール変更により貸出冊数及び回数が減少したと思われる（311回・979冊→279回・789冊）。一方で利用者数についてはR5年度よりも伸びており（30人→33人）、高い水準を維持していることから、事業のPRの成果は一定程度表れている。

（2）指標②については、種類ごとに新たな資料を購入しているが、出版数が限られている資料もあり、大幅な貸出増にはつながっていない。

【その他実績】

中央図書館で実施した小・中学生対象の職場体験で、障がい者サービスや「りんごの棚」の紹介を行った。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

（1）「図書館サービスデザインアクションプラン」に基づき、障がいの種別に関わらず様々な場面で図書館を利用出来る環境を提供できるようサービスの見直しを図っていく。

（2）関連部署と連携し、団体等が参加する審議会や催しで図書資料宅配サービスのPRを行うと共に、障がい者団体等サービスを利用する当事者の意見を聴取し、サービスの改善を図る。

【中長期の取り組み】

（1）読書バリアフリー法を踏まえ、ICT活用による利用者のサービス向上を図るなど、障がい者サービスの充実を目指していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	－

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 障がい等を理由に図書館への来館が困難な方に対して読書を楽しめる機会を提供することは、だれもが身近に読書に親しむための効果的な手段として評価できる。利用回数の増に向けて、一度だけでなく続けて利用したくなるような環境づくりや資料の充実に期待する。
- イ 種類別（大活字本、外国語図書など）の貸出冊数が減少しているため、障がい者サービスについてさらなるPRが必要ではないかと思われる。資料の充実に加え、機会を捉えて対象者へのPRを行ってほしい。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 「図書館サービスデザインアクションプラン」に掲げられた「足立での暮らしや学びが楽しくなる図書館」を実現するためには、障がいのある方へのサービスの充実を図る必要がある。利用者に寄り添ったサービスとなるよう、当事者の意見を聞き取りながら見直しを行い、各種サービスに反映してほしい。
- イ ICT化を進めて利便性の向上を図ることは、現在の社会情勢を踏まえると不可欠である。多くの方が読書に触れ合える環境を提供し読書活動を推進していくためにも、ICT化や新たなサービスの導入を期待する。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	3	4	－

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 大活字本や外国語図書などが図書館にあることを知らない対象者もいると思われる。障がいや言語などにかかわらず読書に親しめる環境整備は、公共図書館にとっては重要な施策であり、関係機関と連携し、主体的に潜在利用者への周知をしていただきたい。
- イ 障がい者向け図書資料宅配サービスの貸出冊数やユニバーサルデザインの館内整理を進めていることは評価できる。事業のPRの成果であり、評価できる。一方、R5年度実績と比べて減少している事実もあるため、それについては残念である。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 当事者の意見を伺う機会を設けることは非常に重要である。障がい者の方や外国語図書を必要としている方など、実際に使っている方（必要とされている方）の声を聞いてより良い形に変更できたらいいと思う。当事者の意見聴取の方法として、相互理解を深めるイベントやワークショップを推進するなどの施策を進めていただきたい。
- イ 図書資料宅配サービス自体が利用者にとってどういう評価をなされているか検証してみてもどうか。また、認知度なども把握してみてもどうか。
- ウ 大活字本などは、病院の待合スペースなどに置いて、高齢者に手に取ってもらう機会を増やしたらいいか。
- エ 図書館外の、対象者のいる場所へのアウトリーチが施策化されているのはすばらしい。外国人・障がい者以外、つまり“普通に普通の本を読む人”にも展開することが望ましい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	2	区民の読書に対する関心を高め支える環境の充実
施策名	2-3	区立図書館などの空間、サービス、情報発信の充実
担当部・課		地域のちから推進部 中央図書館
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

乳幼児コーナー、閲覧スペース、書架等の空間上の工夫や、レファレンスをはじめとするサービス、Wi-Fiや利用者向け電源の設置など情報環境の充実を図る。また、ICタグを活用し、複合施設の機能を活かして、図書館機能の拡大を図り、誰もが利用しやすい環境づくりに取り組み、居場所としての図書館の役割を高めていく。

さらに、公共施設や区民・団体等との連携を図り、図書受渡窓口の整備など図書館外で区民が本を身近に手に取れる環境整備を目指すとともに、様々な媒体や関係する施設を活用し、本に関する情報発信を積極的に行う。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	読書に関心のある区民の割合							
指標の定義	3計画アンケートにて、読書に関心があると回答した区民に割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	55.2% 実績値	55.2%	53.2%	未実施	未実施	未実施		65.0%
目標値（R8）	65.0% 達成率	84.9%	81.8%	-	-	-		

指標名②	1か月に本を読んだ区民の割合							
指標の定義	3計画アンケートにて、本を読むと回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	54.3% 実績値	54.3%	52.9%	未実施	未実施	未実施		60.0%
目標値（R8）	60.0% 達成率	90.5%	88.2%	-	-	-		

指標名③	人口に占める登録者割合							
指標の定義	(算出式) $A \div B$ A 区立図書館登録者数計 B 足立区の総人口							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	26.1% 実績値	26.1%	23.9%	23.3%	22.9%	22.0%		35.0%
目標値（R8）	35.0% 達成率	74.6%	68.3%	66.5%	65.3%	62.7%		

指標名④	図書貸出冊数							
指標の定義	区立図書館における図書貸出冊数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	3,146,503冊 実績値	3,146,503冊	2,940,503冊	2,745,072冊	2,593,084冊	2,422,669冊		3,232,000冊
目標値（R8）	3,232,000冊 達成率	97.4%	91.0%	84.9%	80.2%	75.0%		

指標名⑤	Webを活用した図書の予約貸出冊数							
指標の定義	パソコンやスマートフォン等インターネットを活用した、図書の予約貸出冊数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	684,099冊 実績値	684,099冊	781,795冊	775,188冊	755,257冊	734,958冊		888,000冊
目標値（R8）	888,000冊 達成率	77.0%	88.0%	87.3%	85.1%	82.8%		

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	12	2	1	0	0	0	15
%	80%	13%	7%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①②は未実施。

指標③実績値（22.9%→22.0%）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（35.0%）も下回った。

指標④実績値（2,593,084冊→2,422,669冊）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（3,232,000冊）も下回った。

指標⑤実績値（755,257冊→734,958冊）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（888,000冊）も下回った。

【要因分析】

(1) 指標③については、足立区の総人口が増加している中で、新規登録者数が減少し、カードの有効期限が切れたことによる登録削除数が増加したため、登録者の割合が減少している。

(2) 指標④については、近年、閲覧席のみの利用が増加しているほか、余暇活動の多様化やインターネット（電子書籍を含む）の普及などが主な理由として考えられる。

(3) 指標⑤については、図書資料貸出数の減少（2,593,084冊→2,422,669冊）に伴い、Web予約の貸出冊数も減少したが、減少率（約2.7%）は図書資料全体の貸出冊数の減少率（約6.6%減）に比べて低い。貸出前にWeb予約を行う利用者の割合は増加しており、需要は引き続き高いと考えられる。

【その他実績等】

(1) 「まず図書館に来てもらう」ことを目指し、子ども向けのイベントの充実や閲覧席の利用環境を整えた。図書館を居場所の一つとして利用する方が増え、入館者数は4年連続で増加（R5:2,393,443→R6:2,444,222人）した。

(2) 中央図書館のポスターやチラシの掲示場所を複合施設全体で整理するとともに、禁止事項の張り紙を集約・削減したことで利用者目線に立った分かりやすい掲示を実現した。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) 図書館でのイベントの充実や、魅力ある棚づくりを通して図書館に足を運ぶきっかけを増やしていく。

【中長期の取り組み】

(1) 「図書館サービスデザインアクションプラン」に掲げた目指すべき姿「本を読む人も読まない人も訪れ、区民でにぎわう図書館」を踏まえ、一人でもグループでも居心地の良い空間づくりや、より区民に寄り添った図書館サービスを実現するための区立図書館の見直しを行っている。

(2) 区立図書館見直しの先駆けとして中央図書館のリニューアルをR7年度から10年度にかけて実施する。誰もが居心地よく過ごすことができる居場所・閲覧空間や、特に用事がなくてもぶらりと立ち寄りたくする明るく楽しい雰囲気づくりを目指していく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（2次評価）	4	3	4	-
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 区立図書館の登録者割合は緩やかではあるが減少が続いている。新規登録者の獲得と共に、登録の継続を促すような、居心地の良い魅力ある図書館づくりを進めてほしい。 イ インターネットを活用した予約貸出冊数は減少しているが、担当部の分析にもあるように需要は引き続き高いと考えられる。図書の予約だけでなく、インターネットを通じたサービスの充実に力を入れてほしい。 (2) 「今後の方向性」への評価 ア 図書館を取り巻く環境が大きく変化し、従来の枠から一歩踏み出したサービスを提供する図書館が注目されている中、足立区もアクションプランを策定し、図書館を「単に本を借りる場」から「利用者の活動や交流を促進するような場」にしていこうとする姿勢は評価できる。 イ 中央図書館のリニューアルはコンセプトやターゲットが明確となり、魅力ある図書館にむけて期待ができる。ワークショップ等を通して区民の意見やニーズをしっかりとすくい上げて進めてほしい。 (3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）	4	4	4	-
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 施策③から⑤いずれについても目標に達しておらず、かつR5年度よりも減少していて残念である。5つの成果指標は区立図書館を運営していくうえで、基本となる数値と言える。図書館の登録者の分析（年齢や地域、居住年数など）も行えば、どこに課題があるのか見えてくるのではないかな。 イ 一方、「わくわくにこにこ図書」の活動やホームページに区や時事に関するテーマを掲載するなど、個別の施策については評価できる。 ウ だれもが居場所として快適に楽しめる空間だということを実感してもらえるアプローチを、あらゆる世代に向けて取り組んでほしい。さらに今後は国籍や言語を問わず楽しんでいただける図書館づくりも重要になる。 (2) 「今後の方向性」への評価 ア レファレンスは、生成AIなどのツールの進化が進むことで役割が急激に変わっていくことが予想される。それに対する準備を急ぐ必要がある。司書と利用者が双方にコミュニケーションが取れると思う。 イ 魅力ある棚づくりの一環として、棚ごとに分かりやすいテーマをつけたり、書店で見かける手書きのお勧めPOPをつけたりしてはどうか。 ウ 中央図書館のリニューアルに期待したい。図書館は公共施設の中で、区民にとって一番魅力的なサードプレイスになり得るので、従来の「堅い、暗い、古い、静か」という図書館のイメージを覆すような空間づくりをしてほしい。空間づくりの参考として、図書館以外の様々な場の調査・研究も検討してほしい。 (3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。				

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	3	読書活動を通じた人と人とのつながりの形成
施策名	3-1	読書活動にかかわる人材の育成と団体の支援
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

読書活動推進の事業・サービスにかかわるボランティアを育成するとともに、様々な活躍の場を設けることで、読書活動を地域全体で活性化していくことを目指す。
また、読書活動に取り組む団体等を積極的に支援する。
区立図書館の職員、保育園や幼稚園の職員、学校図書館の運営・活用に関わる教諭などを対象とした研修を行い、読書活動スキルの向上を図る。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	読み語り講座等の参加者のうち読書推進活動を参加希望する方の割合							
指標の定義	読み語り講座等の参加者のうち、アンケートで「読書推進活動に携わりたい」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	-	71.0%	83.5%	69.9%	71.1%	75.0%
目標値（R8）	75.0%	達成率	-	94.7%	111.3%	93.2%	94.8%	

指標名②	図書資料の団体貸出冊数							
指標の定義	図書資料の団体（ボランティア団体、区立小中学校等）への貸出冊数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	120,840点	実績値	120,840点	227,201点	241,275点	231,049点	236,397点	230,000点
目標値（R8）	230,000点	達成率	52.5%	98.8%	104.9%	100.5%	102.8%	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	9	0	0	0	0	0	9
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（69.9%→71.1%）はR5年度を上回り、R8年度目標値（75.0%）を下回った。
指標②実績値（231,049点→236,397点）はR5年度を上回り、R8年度目標値（230,000点）も上回った。

【要因分析】

- 指標①については、講座実施後のアンケートからは「絵本の魅力を子どもに教えたいと思った」「良い絵本や読み聞かせの工夫を知ることができた」などの反応があり、講座の実施が受講生の読書推進活動へのモチベーション向上につながったと考えられる。
- 指標②については、調べる学習コンクールの応募児童・生徒の増や小中学校における図書を使った調べ学習の機会が増加したことに合わせて図書配送サービスの利用も増加したと考えられる。

【新しい生活様式への対応やその他実績等】

- 夏休み期間中、区立図書館全館で小・中学生を対象に「図書館を使った調べる学習コンクール」用図書の貸出を実施した（貸出冊数938冊）。また、校長会において調べ学習の図書貸出しについてのPRを行った。
- 区内児童館への図書配送について、児童館へのPRを行い、利用の増を図った（利用施設15館→16館・配送回数52回→84回・貸出冊数2,303冊→2,543冊）。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- SNSやホームページ等を活用し、幅広く講座の参加者を募り、読み語りを行う人材のスキルアップとしての講座を引き続き行っていく。
- 調べ学習用図書配送サービス等の利用促進に向けて現場の教員や学校司書等へのPRを強化するとともに、利用促進に向けて学校現場の要望を聞き、サービス内容の充実を図る。

【中長期の取り組み】

- 読み語り講座の受講者に対して、読み語りボランティアグループの紹介や活動内容を紹介していくとともに個人でも活動できる場を紹介するなど、それぞれのニーズに合った活動機会の提供を検討していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（２次評価）	4	4	3	－
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 講座参加者が、読書活動推進活動に携わりたいという割合は増加し、その後の活動のモチベーションの向上につながっていることは、評価できる。 イ 区内小・中学校や児童館へのPRにより、団体貸出の増につながり、子どもたちが本に親しむ機会が増えたことは評価できる。 (2) 「今後の方向性」への評価 ア 読書の楽しさや大切さを伝えていけるように、読書活動に関わる人材の育成や活動の場を提供し、さらに読書活動が広がっていくことを期待する。 イ 児童・生徒の調べ学習の充実につなげるため、公共図書館からの図書配送について、学校現場の意見を聞きながら内容の充実と学校の利便性の向上を図って欲しい。 (3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。				

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）	4	4	4	－
(1) 「現在の達成状況」への評価 ア 指標①②ともにR5年度の実績値を上回っており評価できる。読み語り講座の参加者が増えており、区民の関心が高まっていることは評価できる。団体貸出冊数も制度の周知が十分に行き届いていたと考えられる。 イ 新規の学校図書館ボランティア養成・スキルアップ講座等の実施は、十分に発展性がある。おはなし会が未実施の児童館などにボランティア人材を派遣することも効果的である。様々なニーズのある読書環境を多くの人材が支える仕組みづくりは、重要である。 (2) 「今後の方向性」への評価 ア 読み聞かせの講座やボランティア講座は引き続き推進してほしい。講座の内容については子どもの権利、こどもまんかななどの国の理念・動向も重視した内容にブラッシュアップしてほしい。例年踏襲ではなく、時節に合った人材育成に期待する。 イ より多くの方に講座に参加いただくよう、周知に力を入れてほしい。SNSやホームページも当然のことながら、PTAやあやセンターぐるぐるなど、地域活動への参加が積極的である団体やコミュニティへのアプローチも進めていただきたい。 ウ ボランティア人材や団体の活躍の場を区がコーディネートしていく役割も大きな意義がある。 エ 町場の「読書センター」である書店も惹き込む必要がある。 (3) 「助言の反映状況」への評価 令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。				

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

読書活動推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	3	読書活動を通じた人と人とのつながりの形成
施策名	3-2	読書活動推進のための多様な連携と協創の推進
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

読書が個人の楽しみに終わることなく、各人の多様な関心と活動につながることを目指す。
 そのため区立図書館においては、本や読書活動をきっかけに利用者同士がコミュニケーションを図れるような事業展開を進めるとともに、区立図書館、地域学習センター、生涯学習振興公社、民間事業者などが連携し、区民の交流を促し、多様な活動につながるような取り組みを行っていく。また、読書をきっかけとして、文化やスポーツをはじめとする異なる分野への活動にもつながるような機会提供にも取り組む。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	3分野連携事業への参加により、新たに読書を始めた区民の割合								
指標の定義	3分野連携事業の参加者アンケートにおいて、「定期的ではないが、読書をしている。」以上を選んだ区民の割合								
現状値（H30）	新規	実績値	H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
目標値（R8）	83.0%	達成率	-	75.7%	71.0%	72.4%	72.3%		83.0%

指標名②									
指標の定義									
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値							
目標値（R8）		達成率							

指標名③									
指標の定義									
			H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値							
目標値（R8）		達成率							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	0		0	0	0	2
%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（72.4%→72.3%）はほぼ横ばいであるが、R8年度の目標値（83.0%）は下回った。

【要因分析】

指標①について、引き続き区内15か所の拠点で文化芸術またはスポーツをきっかけに読書につなげるプログラムを実施したことにより、読書をしていない区民への働きかけができ、前年度と同等の実績を上げることができた。

【その他実績等】

- A-Festaに出展し、紙芝居の実演や工作会、本のとらば一ゆを実施し、多くの人へ絵本の楽しさを伝えることができた（延べ563人参加、とらば一ゆ406冊）。
- 学びピア21で「図書館にはたらく犬がやってくる」を開催し、障がいのある方の理解を深めるため、日本補助犬協会による講演と補助犬のデモンストレーション、ユニバーサルデザイン製品の展示や関連本の貸出、調べ学習のPR等を行った（77人参加、6人14冊貸出）。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 普段本を読まない人でも気軽に本に触れられるよう、多くの人が集まる大型イベントに図書館ブースを出展するなど、アウトリーチ事業を中心に本の楽しさを伝えるイベントを積極的に実施し、本に触れる機会を増やすことで、読書習慣の定着を図っていく。
- まちなかで本と触れ合える仕組みを検討していく。先進事例を視察の上、R7年度中に事業の目的や位置付け、運営スタッフの配置、イベントや企画を区民が自発的に行うような体制について検討していく。

【中長期の取り組み】

- 「図書館サービスデザインアクションプラン」を踏まえて、乳幼児に向けた事業から地域の歴史や文化などをテーマにした大人向け事業の実施など、多様な人々が本や情報を仲立ちとして楽しくつながり、交流が生まれるような仕掛けや場所を創出し、利用者層の拡大を図っていく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
4 庁内検討委員会による評価（2次評価）	3	3	3	－

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア 指標①については、近年実績値がほぼ横ばいであり、R8年度の目標値には取り組みの強化が必要と思われる。新たな場所や切り口を検討するなど、工夫を図ってほしい。

(2) 「今後の方向性」への評価

ア アウトリーチ事業として身近な場所で本に親しむことができることは、普段あまり図書館を利用しない親子にとっても本を楽しむきっかけづくりにつながる。関係機関との連携を強化し、より効果的な場所での開催を検討することで、読書に親しめる内容のイベントを数多く実施してほしい。
イ 子どもから高齢者まであらゆる世代が図書館サービスを利用でき、図書館を通じて楽しくつながる仕掛けや場所の創出方法の検討をしてほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況への評価を記載します。

	全体評価	達成度	方向性	反映状況
5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）	4	4	4	－

(1) 「現在の達成状況」への評価

ア 文化芸術やスポーツを読書につなげる取り組みはとてもいいと思う。一方で割合は低くないものの、目標達成には至らない状況が続いている。これまでの取り組みも継続しつつ、新たな取り組みにも期待したい。
イ アウトリーチ事業については、R5年度よりも多くなっている点は評価できる。区内15か所の拠点で文化芸術やスポーツをきっかけに読書につなげるプログラムを実施したことは評価できる。
ウ 3つの対応事業も、新規事業を含め「A」を達成していることは、評価できる。とりわけ、アウトリーチ事業においては、初めての実施では場所の選定や手法などに時間を要することも想定され、他部署や民間事業者の理解と協力が欠かせない。

(2) 「今後の方向性」への評価

ア 参加意欲をかきたてるような取り組み・イベントを引き続き検討してほしい。
イ アウトリーチ事業やイベントは様々な事業と連携することで、最小の工数で最大の効果が出るため、引き続き効率の良い連携方法を検討してほしい。
ウ 普段読まない、本に興味がない人が集まる場所での本との接点づくりが大切であるとする。その点では、まちなかで本と触れ合える仕組みについては、共働き世帯が増え、時間がないという人も多くいる現代において、非常に重要な視点であるとする。
エ 地域のさまざまな場所で読書ができる環境を整備することで、本が身近にあり、本が人と人をつなぎ、「楽しさと出会えるまち」を大いに期待する。
オ スポーツ、文化の2分野との協働は、うまいハイブリッドが発見できれば素晴らしいが、利用者層（および潜在的な利用者層）の関心と時間を取りあう競合関係にあるのも事実であるため、2分野が行っている施策の如何を検証・検討・応用することが重要である。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり
施策名	1-1	子ども・成人・高齢者・障がい者が運動・スポーツを楽しむためのきっかけづくり
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

年齢や生活環境、健康状態、障がいの有無等によって取り組みたいと思う、または取り組むことができる運動・スポーツは異なる。こうした状況をふまえ、ライフステージや個々の状況に応じた、きめ細やかな施策・事業を展開する。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	区民のスポーツ実施率							
指標の定義	3計画アンケートにて、運動・スポーツを「週に1日以上実施している」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	35.9%	実績値	35.9%	35.2%	-	-	-	(50.0%)
目標値（R8）	50.0%	達成率	-	70.4%	-	-	-	

指標名②	イベント後に運動・スポーツへの意欲が向上した区民の割合							
指標の定義	スポーツ振興課所管イベントの参加者アンケートにて、運動・スポーツを「ほとんどやらない」と回答した方のうち、イベントに参加して運動・スポーツをやりたいと「思った」「やや思った」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	70.7%	82.6%	78.3%	88.1%	90.5%	(85.0%)
目標値（R8）	85.0%	達成率	-	97.2%	92.1%	103.6%	106.5%	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	18	10	3	2	0	0	33
%	55%	30%	9%	6%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値 R6年度未実施

指標②実績値(88.1%→90.5%)はR5年度を上回り、R8年度の目標値(85.0%)も上回った。

【要因分析】

- (1) 指標②については、R5年度からコロナの5類移行によりイベントの参加が容易となり、スポーツの楽しさを感じられる場の増加から、意欲向上に繋がったと推測される。また、既存事業の見直しをはかったことで、参加者増加も要因の1つとなったと考えられる。

【その他実績等】

- (1) 様々な年代向け事業の工夫

ア みるスポーツの拡充や、親子体験会の募集人員の増加により、参加者の増につなげた。

- (2) パークで筋トレ事業は、新規会場の増設や、新規参加者獲得と継続参加につながるキャンペーンを実施したことにより、R5年度より参加者数を伸ばすことができた。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- (1) 多様化する様々な年代や対象者へのスポーツに対する取り組みについて、活動の定着と、参加のしやすさ、またモチベーションを維持する企画の工夫を継続していく。
- (2) 引き続き、運動に取り組んでいない方に対し、気軽に参加できる事業を実施し、「健康」や「仲間づくり」といった運動やスポーツから得られるものをPRし次の参加や習慣化につながる工夫を行っていく。

【中長期の取り組み】

- (1) 運動やスポーツに取り組んでいない方へのアプローチ方法やきっかけづくりに注力する。注目される競技は変化しているため、集客や効果的に取り組めるものを注視しながら対応していく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	－

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

- (1) 「現在の達成状況」への評価
- ア 参加者が減少している事業内容を検討し、企画内容のブラッシュアップをおこなったことは評価できる。
- イ 誰でも参加しやすい事業として、ウォーキングチャレンジが根付いてきた。
更なる参加者アップのために、ターゲット層となる区内社会人へのアプローチ方法に工夫がほしい。
- (2) 「今後の方向性」への評価
- ア 様々な年代や対象者にむけ、参加しやすい企画の工夫をしていく方向性は評価できる。今後も参加者のニーズをキャッチし、既存の内容にとらわれずに事業の工夫を行ってほしい。
- イ すでに運動・スポーツに取り組んでいる方ではなく、取り組むことにハードルを感じている方に楽しさを感じてもらうため、スポーツを入り口としない事業内容の工夫に期待する。
競技スポーツだけではなく、一人でも、どんな場所でも、気軽にといったキーワードを意識した区の後押しが大切であると考え。
- (3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	－

5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）

- (1) 「現在の達成状況」への評価
- ア 指標②については、R6年度90.5%でR8目標85.0%を達成している。R5年度からのコロナ5類移行による環境の変化や既存事業の見直しなどが、意欲向上に寄与したと推測される。
- イ 個別事業の目標が概ね達成されていること、また、事業の達成度分布で半数以上がA評価であることは評価できる。
一方で、指標①と指標②は、調査対象者が異なるため、指標②の達成のみをもって、施策達成とする点には、課題も残る。また、B評価以下の事業については、広報や類似事業などの見直しが必要と思われるものもあり、今後の検討の余地もある。
- ウ「パークで筋トレ」や「ウォーキングチャレンジ」など、足立区民にとって根付いている事業が見受けられることは素晴らしい成果の一つである。今後は、子どもの体力低下を踏まえた、学校での縄跳び・持久走・長距離走の取り組みの継続など、高齢者だけではなく、子どもにも根付いていく事業の検討が望まれる。
- (2) 「今後の方向性」への評価
- ア 個別事業の達成・未達分析と改善策を今後の施策展開に活かすことが重要である。特に、継続事業については「新規参加者数」のほか、「実人数」など、各種指標のより詳細な把握が必要である。
- イ 様々な年代や対象者に向けて、参加しやすい企画の工夫として、PRに合わせて「付加価値」を検討してほしい。例えば、成果を上げた「パークで筋トレ」であれば、新規参加者の拡大に向けて「高齢者地域包括ケア推進課と連携し、参加時や新規の友人を紹介した際に「あだち脳活ラボ」登録者へポイントを付与する」など、積極的に推進してほしい。
- (3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり
施策名	1-2	だれもが運動・スポーツを「する」「みる」機会の充実
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

ライフステージ等に応じた運動・スポーツを楽しむ機会の充実だけでなく、世代や障がいの有無を越えて、だれもがともに同じ空間で運動・スポーツに親しみ、楽しみや喜びを共有できる機会を充実させていくことは、人と人との結びつきや地域の絆を形成していくために重要である。
区民のスポーツに対するニーズに応じて、運動・スポーツを「する」だけでなく、「みる」機会の充実を図り、運動・スポーツを通じて多様な区民が交流する共生社会の実現へとつなげていく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	運動・スポーツを観戦した区民の割合							
指標の定義	3計画アンケートにて、頻度にかかわらず、過去1年間に運動・スポーツを「観戦した」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	65.9%	実績値	65.9%	42.1%	-	-	-	(80.0%)
目標値（R8）	80.0%	達成率	-	52.6%	-	-	-	

指標名②	区民のスポーツ実施率【再掲】							
指標の定義	3計画アンケートにて、運動・スポーツを「週に1日以上実施している」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	35.9%	35.2%	-	-	-	(50.0%)
目標値（R8）	50.0%	達成率	-	70.4%	-	-	-	

指標名③	イベント後に運動・スポーツへの意欲が向上した区民の割合【再掲】							
指標の定義	スポーツ振興課所管イベントの参加者アンケートにて、運動・スポーツを「ほとんどやらない」と回答した方のうち、イベントに参加して運動・スポーツをやりたいと「思った」「やや思った」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	82.6%	78.3%	88.1%	90.5%	(85.0%)
目標値（R8）	85.0%	達成率	-	97.2%	92.1%	103.6%	106.5%	

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	7	2	1	1	0	0	11
%	64%	18%	9%	9%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①、②実績値 R6年度未実施

指標②、③は再掲（施策1-1）

【要因分析】

(1) 指標③については、R5年度からコロナの5類移行によりイベントの参加が容易となり、スポーツの楽しさを感じられる場の増加から、意欲的向上に繋がったと推測される。また、既存事業の見直しや新規事業の開催により、イベント参加者増加も要因の1つとなったと考えられる。

【その他実績等】

(1) コロナの5類移行によるイベント参加者の増

ア あだち広報やホームページ、SNSのほか、関係施設にチラシやポスターを配布するなど広く周知することにより、参加者の増加につながった。（スポーツカーニバル R5：4,118人→R6：7,321人）

イ 各種スポーツ大会の開催、選手派遣の増。（R5：13,671人→R6：16,584人）

(2) 民間事業者との連携に基づくプロスポーツチームとの連携事業

ア R5年度に引き続き東京ヴェルディと連携し、WE（女子プロサッカー）リーグとJ1（男子プロサッカー）リーグの区民観戦デーを実施し、「みる」スポーツの機会拡大に取り組んだ。

(3) パラスポーツに触れる機会の拡大

ア スペシャルライフコートの一般利用の促進やスポーツコンシェルジュによる障がい者施設へのアウトリーチ事業等を通じ、広く周知を行い利用者の増につながった。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) プロスポーツチームを有する企業・団体との連携を強めることで、様々な競技の「みる」機会や「体験する」機会を増やし、さらに拡充していく。
(2) 運動やスポーツをすること自体にハードルが高いと感じる区民に対するアプローチ方法として「みる」スポーツや気軽に取り組める「ぶちスポ」を広げていく。

【中長期の取り組み】

(1) オリンピックやパラリンピック、デフリンピック、世界陸上といった国際試合などでスポーツがとりあげられる機会を捉え、より区民に運動・スポーツを身近に感じてもらえる「区民アスリート」の紹介や、パブリックビューイングの実施などを計画的に実施していく。
(2) ボッチャひろばの継続など、誰でも気軽に参加できる競技を継続的にやっていく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	－

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 区に縁のあるプロスポーツ選手やスポーツチーム・事業者との連携により「みる」スポーツの機会の拡充や、体験会内容の充実につなげることができたことは評価できる。
- イ イベントにおける対象者や目標とする活動内容を明確にし、その時々状況に応じた企画を検討することが重要である。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア オリンピック、パラリンピック、世界陸上、デフリンピックといった国際大会が開かれることをきっかけに、様々な競技を覚えたり、興味を持ってもらうことが大切と考える。区民の関心の裾野を広げる活動に期待したい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	－

5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 指標③については、R6年度90.5%でR8目標85.0%を達成している。施策1-1と同様に、R5年度からのコロナ5類移行による環境の変化や既存事業の見直しなどが、意欲向上に寄与したと推測される。
- イ 区民が区内でプロスポーツ・パラスポーツを体験・観戦する機会が増え、スポーツ機会の創出につながっている点は大いに評価できる。また、プロスポーツクラブとの連携や障がい者施設へのアウトリーチ事業の成果などが結果として見受けられる点も高く評価できる。
- ウ 一方で、個別事業の達成度においては、新規事業でB評価、継続事業でD評価、拡大事業でC評価のものもあることから、A評価の事業も含め、実績の分析や具体的な改善策、また、業務委託費も踏まえた費用対効果の観点からの事業継続の是非などの検討が求められる。
- エ イベント実施後のアンケートでは、基本的にスポーツ実施への意欲が向上することはわかっているため、アンケートの取り方の見直しも検討する必要がある。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア スポーツ広場では、新規参加者受け入れの仕組みや種目精査が重要であり「ぶちスポ」を含めた具体的な取り組み策の明示が必要である。
- イ プロスポーツチームとの連携によるコンテンツ拡大など、見ることをきっかけとした体験者の増加も検討するべきである。
- ウ 世界大会（世界陸上、デフリンピック、アジア・パラ大会）を契機とした足立区ならではの取り組みや、足立区出身アスリートに触れる企画の検討などを期待したい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	運動・スポーツの楽しみを深める場の提供
施策名	1-3	運動・スポーツに関する情報の効果的な発信
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

施設情報や利用の仕組み、講座やイベント等の情報、総合型地域クラブや競技団体等の運動・スポーツに関する情報を、区民が必要とするときに入手できるよう、よりわかりやすく発信していく。また、運動・スポーツを生活の中で身近に感じることができるようその意義や効果を、より多くの区民に周知していく。
このほか、ホームページやSNSなどを活用し、情報を充実させていくとともに、各学習センターにおいて、複合施設という特徴を活かし、文化・読書・スポーツに関する情報を、一体的に区民に届けていく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	運動・スポーツに関心のある区民の割合							
指標の定義	3計画アンケートにて、運動・スポーツに「関心がある」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	70.7%	実績値	70.7%	69.9%	-	-	-	(85.0%)
目標値（R8）	85.0%	達成率	-	82.2%	-	-	-	

指標名②	運動・スポーツの機会の充実度							
指標の定義	スポーツ振興課所管イベントの参加者アンケートにて、区が実施している運動・スポーツに関するイベントや教室などについて「とても充実している」「充実している」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	61.9%	65.7%	67.0%	73%	(70.0%)
目標値（R8）	60.0%	達成率	-	103.2%	109.5%	111.7%	121.5%	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	1	1	1	0	0	1	4
%	25%	25%	25%	0%	0%	25%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値 R6年度未実施

指標②実績値（67%→72.9%）はR5年度実績およびR8年度の目標値（70%）を上回った。

【要因分析】

(1) コロナの5類移行後も事業の継続実施や、新規事業の実施をしたことで、区民の運動・スポーツの機会の充実度を評価されたと推察される。

【その他実績等】

(1) ホームページのアクセス数

ホームページのアクセス数の大半を占めるスポーツ施設関連は大きな増減が見られなかったが、スポーツカーニバルなどのイベントはアクセス数が増加した。

(2) 発行物の工夫による情報発信

毎年実施している事業は、デザインイメージをあまりかえず、継続した事業であることを印象づけた。新規事業では対象となっている年代層を絞ってチラシを配送し、興味を引くようにした。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) 事業内容とターゲット層に合わせた手法で、一つの媒体に偏らない情報発信方法を工夫する。

(2) 運動・スポーツ以外からの興味・関心をもてるようスポーツを入り口としない情報発信を行うなど、新たな視点と手法を継続して工夫する。

【中長期的取り組み】

(1) 自分にあった運動・スポーツを楽しめるよう、多種多様な運動・スポーツの情報発信につとめる。

(2) オリンピックやパラリンピック、デフリンピック、世界陸上といった国際試合などでスポーツがとりあげられる機会を捉え、細やかな発信を継続していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	－

4 庁内検討委員会による評価（２次評価）

- (1) 「現在の達成状況」への評価
- ア ホームページのアクセス数が、施設の休館確認のためにアクセスの多かったコロナ禍に比べ伸びていることは評価できる。
 - イ 発行物やホームページなどの情報発信をきっかけに運動・スポーツの楽しみを伝えられる工夫を今後も期待する。
- (2) 「今後の方向性」への評価
- ア 国際的なスポーツ大会やイベントをきっかけに運動・スポーツへの興味・関心を高める発信を工夫していく方向性は評価できる。
 - イ 小中学生へのアプローチがチラシからC4thHome&Schoolに変更されたが、子どもが直接持ち帰る情報ではなく、保護者のフィルターがかかることを前提に発信の内容やタイミングの工夫をしてほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	－

5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）

- (1) 「現在の達成状況」への評価
- ア 指標②については、R6年度73%でR8目標70.0%を達成している。ただし、アンケート対象者は足立区主催イベント参加者に限定したものであるため、この施策が必ずしも目標を達成されたとも評価しきれない状況である。
 - イ ホームページのアクセス数について「スポーツカーニバル等のイベントはアクセス数が増加した」とされているものの、その要因把握が不十分であるため、その他のホームページやSNSなどのチェックによる検証についても検討する必要がある。
また、発行物による情報発信に関しても、継続した事業として区民に認識されているのか、その効果を調べるべきである。
 - ウ 3分野連携事業については、実施回数をさらに増やすことを期待したい。連携事業を増やすことが、足立区への魅力につながり、結果的に、全分野へ相乗効果が生まれるのではないかと。
- (2) 「今後の方向性」への評価
- ア 情報発信については、年齢層やターゲット層に応じた工夫が求められる。。全般的に、情報発信については「情報収集と情報発信」に関する具体的な取り組みを検討し、取り組み内容の徹底した検証が求められる。
 - イ 区民が運動・スポーツ情報にアクセスしやすい方法や環境整備の検討が必要である。
 - ウ 障がい者へのスポーツ機会促進には、本人以外の方（家族、施設の方等）の理解が一番重要となる。そのため、上記の点を意識した広報・PRの改善を検討すべきである。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	2	運動・スポーツの楽しみを深める場の提供
施策名	2-1	身近な場所における運動・スポーツの推進
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

稼働率の高いスポーツ関連施設を新規利用者にも提供できるよう利用調整などの環境改善を行うだけでなく、自宅や職場など生活に身近な場所で気軽にできる運動・スポーツを推進していく。また、地域での活動やコミュニティの拠点となる学校、区施設、総合型地域クラブと連携し、運動・スポーツをより身近に感じることができる環境づくりに取り組んでいく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	身近な場で運動・スポーツを行う区民の割合							
指標の定義	世論調査にて、運動・スポーツを行っている場所について「自宅」「自宅周辺」「職場」「職場周辺」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	75.2%	69.0%	73.3%	70.0%	(80.0%)
目標値（R8）	80.0%	達成率	-	94.000%	86.3%	91.6%	87.5%	

指標名②	よく行く、行きたい公園がある区民の割合							
指標の定義	世論調査にて、「よく行く、または行きたい公園がある」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	43.3%	実績値	43.3%	50.3%	51.2%	46.8%	50.2%	(52.3%)
目標値（R8）	52.3%	達成率	82.8%	96.2%	97.9%	89.5%	96.0%	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	7	3	0	0	0	0	10
%	70%	30%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（73.3%→70.0%）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（80.0%）も下回った。

指標②実績値（46.8%→50.2%）はR5年度を上回り、R8年度の目標値（52.3%）は下回った。

【要因分析】

(1) 自宅や職場、その周辺といった身近な場所で、運動・スポーツに取り組む区民の割合は70%であり、目標を下回った。しかし、令和4年度から70%と横ばいであり、定着が進んでいると考えられる。

【その他実績等】

(1) 年代に応じた身近な場所における運動・スポーツ事業の実施

ア パークで筋トレについては、R6年度に会場を2箇所増やし40箇所を実施している。多くの方が身近で気軽に参加できる場が確保された。

イ 区スポーツ施設における「スポーツ広場」の実施など、身近なところでできる運動・スポーツのきっかけとなる場を提供した。

(2) 総合型地域クラブとの連携

ア 各地域クラブで企画した委託事業がおおむね予定どおり実施できたことで、R5年度よりも実施回数が増加した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) スポーツ施設に頼らない運動・スポーツの場の提供を工夫していく。

(2) 身近なところで、いつでも、どこでも気軽にできる運動に関する発信を行っていく

(3) 区主催事業であっても、関係する民間事業者への協力や共催などを取り入れることで、区外での体験や活動の場についても広げていく。

(4) 誰でも安全に利用できる施設運営や事業実施に取り組んでいく。そのための施設管理者や指導者の安全管理意識を高めていく。

【中長期の取り組み】

(1) 区スポーツ施設の老朽化に伴う施設更新の計画、保守点検の平準化に取り組む。

(2) 区スポーツ施設の整備・維持とともに、民間スポーツ事業者との連携を含め、より運動・スポーツを身近に楽しめる場の新たな提供や事業展開に取り組んでいく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	5	3	－

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 各地域学習センターにおける「ちょいスポ」の取組みは、運動実施率の低い世代に有効な取組みであり、多くの学習センターのメニューに取り入れられるようになった。
- イ 身近な場所がスポーツ施設といった発想にとらわれず、広場や公園、学習センターの会議室など活動の場を広げたことは評価できる。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 身近な場所として親しまれるスポーツ施設が安全に使用できることは大前提であるが、老朽化がすすんでいるため、指定管理者とともに定期的な保守や管理方法の確立が大切である。
- イ 民間事業者へのアプローチは区施設だけではない可能性がある。今後の取り組みの方向性として評価できる。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	－

5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 指標①については、R6年度70.0%でR8目標80.0%に未達だが定着傾向にある。また、指標②（よく行く、行きたい公園がある区民の割合）についても、R6年度50.2%でR8目標52.3%に未達である。しかし、指標①については、前年実績を下回っているものの「身近な場所で運動・スポーツ」は一定程度定しつづくと評価できる。一方、指標②については、公園事務を所管するパークイノベーション推進課との連携がやや判然としない状況である。
- イ 「パークで筋トレ」の実施会場の増設や実施回数の増加による参加者の増加や「ちょいスポ」の取り組みのような、公園、学校や学習センターなど、身近な施設をターゲットとしたスポーツ機会の提供は評価できる。
- ウ 今後、身近なものだけでは体験できないような「スポーツによるドキドキ・ワクワク体験」の提供についても、検討してみてもよいのではないかな。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 総合スポーツセンターなど、老朽化している施設の安全・保守や維持・管理、また、時代に合った改修を進めるとともに、スポーツ施設に頼らない運動・スポーツの場の提供として「自宅で気軽に体を動かす運動のスマホ配信」なども検討すべきである。
- イ 指標②の推進にあたっては「公園」をキーワードとした具体的な取り組みが必要である。例えばパークイノベーション推進課と連携し「緑の協力員」による公園散策（運動と樹木解説）イベントの開催なども検討してほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	3	運動・スポーツをささえる人材の育成と活躍の場の創出
施策名	3-1	運動・スポーツをささえる組織の支援と連携強化
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

体育協会やスポーツ推進委員会など、運動・スポーツをささえる組織を支援し、運営基盤を強化していく。また、地域において組織として期待される役割を意識共有し、組織間の交流を促すなど、連携強化に努めていく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	関係団体との連携事業の実施回数							
指標の定義	「スポーツ協会」「スポーツ推進委員」「総合型地域クラブ」のスポーツ関係団体のほか、民間企業などとの連携により実施した事業の実施回数（※ 定義時には実施回数とあるが数値は事業数）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	24回	実績値	24回	10回	16回	23回	22回	(35回)
目標値（R8）	35回	達成率	-	28.6%	45.7%	65.7%	62.9%	

指標名②	区民のスポーツ実施率【再掲】							
指標の定義	3計画アンケートにて、運動・スポーツを「週に1日以上実施している」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	35.9%	35.2%	-	-	-	(50.0%)
目標値（R8）	50.0%	達成率	-	70.4%	-	-	-	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	1	0	0	0	0	4
%	75%	25%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①（23回→22回）はR5年度実績およびR8年度の目標値（35回）を下回った。

※ 区主催事業、各団体、民間企業への委託事業は連携活動に含まない。

指標②は再掲（施策1-1）

【要因分析】

(1) R4年度から開催した民間連携事業「区民観戦デー」を拡充して開催した。

(2) 事業の見直しを行っているものもあり、目標に達することが難しかったと推察する。

【その他実績等】

(1) スポーツ推進委員の地域イベント参加

コロナの影響以降、学校や町会等地域団体の要望に応じ、スポーツ推進委員が指導員や体験教室を行い普及に努めた。継続して活動をしている地域団体もあり、定着に寄与した。

(2) スポーツ協会加盟団体の活動支援

コロナの5類移行、活動を再開していく大会や事業について後援承認を行い支援をしている。R5の実績値からは減少したが、R8目標値には近い実績となっており、地域活動支援に寄与した。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) 障がい者も含め、誰もが身近なところで運動・スポーツに取り組めるよう、さらに区内団体の活動の活性化と環境を整えていくために「足立区パラスポーツ推進協議会」を立ち上げ、そこでの協議を深めていく。

(2) 民間事業者との連携により、より多くの運動・スポーツに触れる機会の創出を図っていく。

【中長期の取り組み】

(1) 区に関連するスポーツ関係団体や民間事業者、パラスポーツ活動における協働・協創パートナーなど相互の情報交換や相互交流を図る機会を提供し、ネットワークづくりに注力する。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	－

4 庁内検討委員会による評価（２次評価）

- (1) 「現在の達成状況」への評価
- ア スポーツ推進委員会やスポーツ協会加盟団体といった地域で活動する人材を中心に、スポーツを定期的に身近な場所で行える状態を保つ取り組みが組織的に行われていることを評価したい。
 - イ 学校や町会等地域団体に対するアウトリーチ事業は、身近にできる運動・スポーツ活動の定着に効率的であり、その活動の広がりにも今後も期待する。
 - ウ パラスポーツに特化した協議会で関係者が集まり様々な検討が深まることを期待したい。
- (2) 「今後の方向性」への評価
- ア 民間団体にまで連携先を広げ、区民の運動・スポーツの機会の拡充に取り組む方向性は評価できる。
 - イ 誰でも楽しめるスポーツの機会の提供に団体が果たす役割を意識した活動につながることを期待する。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	－

5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）

- (1) 「現在の達成状況」への評価
- ア 指標①については、R6年度22回であり、R8目標35回に対し達成率62.9%と目標を下回った。ただし、スポーツ協会加盟団体への活動支援による参加者数の増加については評価できる。
 - イ コロナ禍での活動停滞によりボランティアの世代交代が進んでおらず、働き方の変化や多様なスポーツ種目への対応が課題である。スポーツ関連団体の世代交代の状況、イベント参加・新規協力者の把握、ボランティア育成などを視野に入れた検討が求められる。
 - ウ 情報交換や連携強化の場としてのミーティングや研修は重要であるものの、連携強化が運動・スポーツを支える人材育成にどうつながったのか、具体的にどのような成果が生まれたのか、という点について、より落とし込んで検討する必要がある。
- (2) 「今後の方向性」への評価
- ア パラスポーツ推進は「足立区パラスポーツ推進協議会」の名称が障がい者限定と受け取られかねないため、インクルーシブな視点で検討し、学校や民間との連携強化により、触れ合う機会を増やすべきである。また、パラスポーツミーティングは課題も多いため、細分化して解決を図る必要がある。
 - イ 委託事業者やスポーツ関連団体との連携強化は重要であるものの、委託事業費の費用対効果を分析検証し、事業の継続や改廃を検討すべきである。また、オール足立での運動・スポーツ推進には、民間のスポーツジムとの連携も検討するべきである。
- (3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	3	運動・スポーツをささえる人材の育成と活躍の場の創出
施策名	3-2	運動・スポーツをささえる人材の育成とマッチング
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

運動・スポーツを通して人と人とのつながりや、地域のコミュニティを醸成していくために、区民の運動・スポーツをささえていく多様な人材の育成支援に取り組んでいく。
また、地域のニーズを把握し、こうした運動・スポーツをささえる人材が、適切な場で活躍できるようマッチングする仕組みを整えていく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	運動・スポーツをささえる活動を行った区民の割合							
指標の定義	3計画アンケートにて、過去1年間に運動・スポーツをささえる活動をしたことが「ある」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	16.8%	実績値	16.8%	11.4%	-	-	-	(35.0%)
目標値（R8）	35.0%	達成率	-	32.6%	-	-	-	

指標名②	スポーツボランティアの地域イベントへの協力人数							
指標の定義	運動・スポーツをささえる活動に従事した「公認スポーツボランティア」「障がい者スポーツボランティア」などの延べ従事人数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	297人	479人	487	584	(820人)
目標値（R8）	820人	達成率	-	36.2%	58.4%	59.4%	71.2%	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	4	2	1	0	0	0	7
%	57%	29%	14%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等	
【達成状況】 指標①実績値 R6年度未実施 指標②実績値（487人→584人）はR5年度を上回り、R8年度の目標値（820人）を下回った。	
【要因分析】 (1) 指標②はコロナ以降参加可能なイベントが再開しているが、ボランティアとして活動する人材が固定化されている。増加はしているが、目標まではまだ遠い実績となった。	
【その他実績等】 (1) 学校訪問型パラ体験事業 令和5年度から実施し、学校および委託事業者と綿密な調整を行い、令和6年度も全小学校で実施することができた。	
(2) スポーツ関連人材育成のための研修の充実 スポーツ協会、スポーツ推進委員会、その他スポーツ指導員に対する研修に参加した人数が、525人と大幅に増加し、ささえる人材の活躍の場を広げ、スキルアップにつなげている。	
＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等	
【短期の取り組み】 (1) ささえる人材の活動の場を拡充し、パラスポーツをはじめとする誰もが取り組める運動・スポーツの普及に取り組む。 (2) スポーツイベントの受付のような対人的なスキルや、指導補助などこれまでの経験を生かす様々な活動の場を創出することで、より多くの人材の参加とスキルアップを図っていく。	
【中長期の取り組み】 (1) 組織の垣根を超えた連携と、安全に配慮できる専門的な指導者育成と活躍の場を検討する。また、指導者の安全に対する意識向上のための研修を実施し、団体相互で情報を共有化していく。	
＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由	
令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。	

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	－

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

- (1) 「現在の達成状況」への評価
- ア 支える人材に対し、より多くの研修や講習会に参加してもらえるよう工夫し、スキルアップに努めていることは評価できる。
 - イ 指導者とボランティアといった役割の違いによって対応できる内容を明確にし、支える活動に参加しやすい工夫を期待する。
- (2) 「今後の方向性」への評価
- ア より安全に運動・スポーツの指導や、障がい者のスポーツをささえるためのスキルを身につけられる仕組みを工夫してほしい。
 - イ 区以外の都内で行われるスポーツイベントなどに参加しキャリアを積む区民もいると思われるため、幅広く区の情報以外にも情報発信をしてほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	－

5 推進委員会による評価（令和7年9月記載）

- (1) 「現在の達成状況」への評価
- ア 指標②については、R6年度584人でR8目標820人に対し未達であるものの、前年度実績を約20%上回った点は評価できる。また、スポーツを支える人材向けの研修が多く開催され、参加者も大幅に増加しており、スキルアップにつながっている点も評価できる。
 - イ ボランティアとして活動する人材が固定化されていることが課題である。新規協力者の把握と活動への勧誘、および固定化を打破するための具体的な対策の実行が重要である。
 - ウ 他の地域でも起こっていることだが、指導員登録や研修回数が充実しているにもかかわらず、現場でその知識や経験を発揮する場がなかなか見つからない、という声が聞かれる。その中で、足立区でもささえる人材の依頼件数が低調である点は懸念される。研修参加者の増加が具体的にどう実績に反映されているのかを明確にする必要がある。
- (2) 「今後の方向性」への評価
- ア スポーツを支える人材育成は、専門性や活動レベルに応じた募集・研修が必要である。新規協力者の確保、継続的研修、近隣大学の学生ボランティア活用、および不参加者への対応が今後の課題であり、多くの区民が手を挙げやすい環境づくりが必要である。
 - イ 研修は、各グループ別に実施回数と参加人数を明記し、把握できるようにしておく必要がある。
 - ウ より多くの区民を巻き込む文化・読書との連携事業やイベントの開催増加を期待したい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）